

## 歴代志上

## 第一章

「アダム、セツ、エノス、ニゲナン、マハラレル、ヤレド、三エノク、メトセラ、ラメク、四ノア、セム、ハム、ヤベテ。

五ヤベテの子らはゴメル、マゴグ、マダイ、ヤワン、トバル、メセク、テラス。六ゴメルの子らはアシケナズ、デパテ、トガルマ。セヤワンの子らはエリシャ、タルシシ、キツテム、ロダニム。

八ハムの子らはクシ、エジプト、プテ、カナン。九クシの子らはセバ、ハビラ、サブタ、ラアマ、サブテカ。ラアマの子らはシバとデダン。一〇クシはニムロデを生んだ。ニムロデは初めて世の権力ある者となった。

二エジプトはルデびと、アナムびと、レハブびと、ナフトびと、三パテロスびと、カスルびと、カフトルびとを生んだ。カフトルびとからペリシテびとが出た。

三カナンは長子シドンとヘテを生んだ。四またエブスびと、アモリびと、ギルガシびと、五ヒビびと、アルキびと、セニびと、六アルワデびと、ゼマリびと、ハマテびとを生んだ。

七セムの子らはエラム、アシュル、アルパクサデ、ルデ、アラム、ウズ、ホル、ゲテル、メセクである。八ア

ルパクサデはシラを生み、シラはエベルを生んだ。一九エベルにふたりの子が生れた。ひとりの名はベレグ——彼の代に地の民が散り分れたからである——その弟の名はヨクタンといった。二〇ヨクタンはアルモダデ、シャレフ、ハザル・マウテ、エラ、二一ハドラム、ウザル、デクラ、三エバル、アビマエル、シバ、四オフル、ハビラ、ヨバブを生んだ。これらはみなヨクタンの子である。

五セム、アルパクサデ、シラ、六エベル、ベレグ、リウ、七セルグ、ナホル、テラ、八アブラムすなわちアブラハムである。

九アブラハムの子らはイサクとイシマエルである。一〇彼らの子孫は次のとおりである。イシマエルの長子はネバヨテ、次はケダル、アデビエル、ミブサム、一一シマ、ドマ、マッサ、ハダデ、テマ、一二エトル、ネフシ、ケデマ。これらはイシマエルの子孫である。一三アブラハムのそばめケトラの子孫は次のとおりである。彼女はジムラン、ヨクシャン、メダン、ミデアン、イシバク、シユワを産んだ。ヨクシャンの子らはシバとデダンである。

一四ミデアンの子らはエバ、エベル、ヘノク、アビダ、エルダア。これらはみなケトラの子孫である。

一五アブラハムはイサクを生んだ。イサクの子らはエサウとイスラエル。一六エサウの子らはエリバズ、リウエル、エウシ、ヤラム、コラ。一七エリバズの子らはテマン、オマル、ゼビ、ガタム、ケナズ、テムナ、アマレク。一八リ

ウエルの子らはナハテ、ゼラ、シヤンマ、ミツザ。

三八セイルの子らはロタン、シヨバル、デベオン、アナ、デシオン、エゼル、デシヤン。三九ロタンの子らはホリとホمام。ロタンの妹はテムナ。四〇シヨバルの子らはアルヤン、マナハテ、エバル、シビ、オナム。デベオンの子らはアヤとアナ。四一アナの子はデシオン。デシオンの子らはハムラン、エシバン、イテラン、ケラン。四二エゼルの子らはビルハン、ザワン、ヤカン。デシヤンの子らはウズとアラン。

四三イスラエルの王を治める王がまだなかった時、エドムの地を治めた王たちは次のとおりである。ベオルの子ベラ。その都の名はデナバといった。四四ベラが死んで、ボズラのゼラの子ヨバブが代つて王となった。四五ヨバブが死んで、テマンびとの地のホシヤムが代つて王となった。四六ホシヤムが死んで、ベダデの子ハダデが代つて王となった。彼はモアブの野でミデアンを撃つた。彼の都の名はアビテといった。四七ハダデが死んで、マスレカのサムラが代つて王となった。四八サムラが死んで、ユフラテ川のほとりのレホボテのサウルが代つて王となった。四九サウルが死んで、アクボルの子バアル・ハナンが代つて王となった。五〇バアル・ハナンが死んで、ハダデが代つて王となった。彼の都の名はパイといった。彼の妻はマテレデの娘であつて、名をメヘタベルといった。マテレデはメザハブの娘である。五一ハダデも死んだ。

エドムの族長は、テムナ侯、アルヤ侯、エテテ侯、五二アホリバマ侯、エラ侯、ピノン侯、五三ケナズ侯、テマン侯、ミブザル侯、五四マグデエル侯、イラム侯。これらはエドムの族長である。

第二章 イスラエルの子らは次のとおりである。ルベン、シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルン、ニダン、ヨセフ、ベニヤミン、ナフタリ、ガド、アセル。五五ユダの子らはエル、オナン、シラである。この三人はカナンの女バテシユアがユダによつて産んだ者である。ユダの長子エルは主の前に悪を行つたので、主は彼を殺された。五六ユダの嫁タマルはユダによつてペレツとゼラを産んだ。ユダの子らは合わせて五人である。

五七ペレツの子らはヘツロンとハムル。五八ゼラの子らはジムリ、エタン、ヘマン、カルコル、ダラで、合わせて五人である。五九カルミの子はアカル。アカルは奉納物についで罪を犯し、イスラエルを悩ました者である。ハエタンの子らはアザリヤである。

六〇ヘツロンに生れた子らはエラメル、ラム、ケルバイである。六一ラムはアミナダブを生み、アミナダブはユダの子孫のつかさナシオンを生んだ。六二ナシオンはサルマを生み、サルマはボアズを生み、六三ボアズはオベデを生み、オベデはエツサイを生んだ。六四エツサイは長子エリアブ、次にアピナダブ、第三にシメア、六五第四にネタンエル、第六にラダイ、六六第六にオゼム、六七第七にダビデを生んだ。

二六 彼らの姉妹はゼルヤとアビガイルである。ゼルヤの産んだ子はアビシャイ、ヨアブ、アサヘルの三人である。二七 アビガイルはアマサを産んだ。アマサの父はイシマエルびとエテルである。

二八 ヘツロンの子カレブはその妻アズバおよびエリオテによつて子をもうけた。その子らはエシル、シヨバブ、アルドンである。二九 カレブはアズバが死んだのでエフラタをめとつた。エフラタはカレブによつてホルを産んだ。三〇 ホルはウリを生み、ウリはベザレルを生んだ。

三一 そののちヘツロンはギレアデの父マキルの娘の所にはいった。彼が彼女をめとつたときは六十歳であつた。彼女はヘツロンによつてセグブを産んだ。三二 セグブはヤイルを生んだ。ヤイルはギレアデの地に二十三の町をもつていた。三三 しかしゲシュルとアラムは彼らからハボテ・ヤイルおよびケナテとその村里など合わせて六十の町を取つた。これらはみなギレアデの父マキルの子孫であつた。三四 ヘツロンが死んだのち、カレブは父ヘツロンの妻エフラタの所にはいった。彼女は彼にテコアの父アシウルを産んだ。

三五 ヘツロンの長子エラメルの子らは長子ラム、次はブナ、オレン、オゼム、アヒヤである。三六 エラメルはまたほかの妻をもつていた。名をアタラといつて、オナムの母である。三七 エラメルの長子ラムの子らはマアツ、ヤミン、エケルである。三八 オナムの子らはシャンマイとヤダ

である。シャンマイの子らはナダブとアビシウルである。三九 アビシウルの子の名はアビハイルといつて、アバインとモリデを産んだ。四〇 ナダブの子らはセレドとアツパムの子である。セレドは子をもたずに死んだ。三二 アツパイの子はイシ、イシの子はセシャン、セシャンの子はアヘライである。三三 シャンマイの兄弟ヤダの子らはエテルとヨナタンである。エテルは子をもたずに死んだ。三三ヨナタンの子らはベレテとザザである。以上はエラメルの子孫である。三四 セシャンには男の子はなく、ただ女の子のみであつたが、彼はヤルハと呼ぶエジプトびとの奴隷をもつていたので、三五 セシャンは娘を奴隷ヤルハに与えてその妻とさせた。彼女はヤルハによつてアツタイを産んだ。三六 アツタイはナタンを生み、ナタンはザバデを生み、三七 ザバデはエフラルを生み、エフラルはオベデを生み、三八 オベデはエヒウを生み、エヒウはアザリヤを生み、三九 アザリヤはヘレツを生み、ヘレツはエレアサを生み、四〇 エレアサはシスマイを生み、シスマイはシャルムを生み、四一 シシャルムはエカミヤを生み、エカミヤはエリシヤマを生んだ。

四二 エラメルの兄弟であるカレブの子らは長子をマレシヤといつてジフの父である。マレシヤの子はヘブロン。四三 ヘブロンの子らはコラ、タツプア、レケム、シマである。四四 シマはラハムを生んだ。ラハムはヨルカムの父である。またレケムはシャンマイを生んだ。四五 シャンマイ



の子はマオン。マオンはベテヅルの父である。四六カレブのそばめエバはハラン、モザ、ガゼズを産んだ。ハランはガゼズを生んだ。四七エダイの子らはレゲム、ヨタム、ゲシャン、ベレテ、エバ、シヤフである。四八カレブのそばめマアカはシベルとテルハナを産み、四九またマデマンナの父シヤフおよびマクベナとギベアの父シワを産んだ。カレブの娘はアクサである。五〇これらはカレブの子孫であつた。

エフラタの長子ホルの子らはキリアテ・ヤリムの父シヨバル、五ベツレヘムの父サルマおよびベテガデルの父ハレフである。五二キリアテ・ヤリムの父シヨバルの子らはハロエとメヌコテびとの半ばである。五三キリアテ・ヤリムの氏族はイテルびと、ブテびと、シユマびと、ミシラびとであつて、これらからザレアびとおよびエシタオルびとが出た。五四サルマの子らはベツレヘム、ネトパびと、アタロテ・ベテ・ヨアブ、マナハテびとの半ばおよびゾリびとである。五五またヤベツに住んでいた書記の氏族はテラテびと、シメアテびと、スカテびとである。これらはケニびとであつてレカブの家の先祖ハマテから出た者である。

第三章 一ヘブロンで生れたダビデの子らは次のとおりである。長子はアムノンでエズレルびとアヒノアムから生れ、次はダニエルでカルメルびとアビガイルから生れ、三第三はアブサロムでゲシユルの王タルマイ

の娘マアカの産んだ子、第四はアドニヤでハギテの産んだ子、五第五はシバテヤでアビタルから生れ、第六はイテレアムで、彼の妻エグラから生れた。四この六人はヘブロンで彼に生れた。ダビデがそこで王となつていたのは七年六か月、エルサレムで王となつていたのは三十三年であつた。五エルサレムで生れたものは次のとおりである。すなわちシメア、シヨバブ、ナタン、ソロモン。この四人はアンミエルの娘バテシユアから生れた。六またイブハル、エリシヤマ、エリベレテ、セノガ、ネベグ、ヤピア、ハエリシヤマ、エリアダ、エリベレテの九人、九これらはみなダビデの子である。このほかに、そばめども

の産んだ子らがあり、タマルは彼らの姉妹であつた。一〇ソロモンの子はレハベアム、その子にはアビヤ、その子にはアサ、その子にはヨシヤバテ、二その子にはヨラム、その子にはアハジャ、その子にはヨアシ、三その子にはアマジャ、その子にはアザリヤ、その子にはヨタム、四その子にはアハズ、その子にはヒゼキヤ、その子にはマナセ、五その子にはアモン、その子にはヨシヤ、六ヨシヤの子らは長子はヨハナン、次はエホヤキム、七第三はゼデキヤ、第四はシャルムである。八エホヤキムの子孫はその子にはエコニア、その子にはゼデキヤである。九捕虜となつたエコニアの子らはその子シヤルテル、一〇ハマルキラム、ペダヤ、セナザル、エカミア、ホシヤマ、ネダビヤである。二ルペダヤの子らはゼルバベルとシメイである。ゼルバベルの子らはメシユラム

とハナニヤ。シロミテは彼らの姉妹である。二〇またハシユバ、オヘル、ベレキヤ、ハサデヤ、ユサブ、ヘセデの五人がある。二一ハナニヤの子らはペラテヤとエシヤヤ、その子レバヤ、その子アルナン、その子オバデヤ、その子シカニヤである。二三シカニヤの子らはシマヤ。シマヤの子らはハットシ、イガル、バリヤ、ネアリヤ、シャバテの六人である。二四ネアリヤの子らはエリオエナイ、ヒゼキヤ、アズリカムの三人である。二五エリオエナイの子らはホダヤ、エリアシブ、ペラヤ、アックブ、ヨハナン、デラヤ、アナニの七人である。

第四章 ユダの子らはベレツ、ヘツロン、カルミ、ホル、シヨバルである。二シヨバルの子レアヤはヤハテを生み、ヤハテはアホマイとラハデを生んだ。これらはザレアびとの一族である。三エタムの子らはエズレル、イシマおよびイデバシ、彼らの姉妹の名はハゼレルポニである。四ゲドルの父はベヌエル、ホシヤの父はエゼルである。これらはベツレヘムの父エフラタの長子ホルの子らである。五デコアの父アシユルにはふたりの妻ヘラとナアラとがあつた。六ナアラはアシユルによつてアホザム、ヘベル、テメニおよびアハシタリを産んだ。これらはナアラの子である。七ヘラの子らはゼレテ、エゾアル、エテナンである。八コツはアヌブとゾベバを生んだ。またハルムの子アハルヘルの氏族も彼から出た。九ヤベツはその兄弟のうちで最も尊ばれた者であつた。

その母が「わたしは苦しんでこの子を産んだから」と言つてその名をヤベツと名づけたのである。一〇ヤベツはイスラエルの神に呼ばわつて言つた、「どうか、あなたが豊かにわたしを恵み、わたしの国境を広げ、あなたの手がわたしとともにあつて、わたしの災から免れさせ、苦しみをうけさせられないように」。神は彼の求めるところをゆるされた。二シユワの兄弟ケルブはメヒルを生んだ。メヒルはエシトンの父、三エシトンはベテラバ、バセアおよびイルナハシの父テヒンナを生んだ。これらはレカの人々である。四ケナズの子らはオテニエルとセラヤ。オテニエルの子らはハタテとメオノタイ。五メオノタイはオフラを生み、セラヤはゲハラシムの父ヨアブを生んだ。彼らは工人であつたのでゲハラシムと呼ばれたのである。六エフソネの子カレブの子らはイル、エラおよびナアム。エラの子はケナズ。七エハレレルの子らはジフ、ジバ、テリア、アサレルである。八エズラの子らはエテル、メレデ、エベル、ヤロン。次のものはメレデがめとつたパロの娘ビテヤの子らである。すなわち彼女はみごもつてミリアム、シャンマイおよびイシバを産んだ。イシバはエシテモアの父である。九彼の妻はユダヤ人で、ゲドルの父エレデとソコの父ヘベルとザノアの父エクテエルを産んだ。一〇ナハムの姉妹であるホデヤの妻の子らはガラムびとケイラの父およびマアカびとエシテモアである。一一シモンの子らはアムノン、リンナ、ベネハ

ナン、テロンである。イシの子らはゾヘテとベネゾヘテである。二エダの子シラの子らはレカの父エル、マレシヤの父ラダおよびベテアシベアの亜麻布織の家の一族、三ならびにモアブを治めてレヘムに帰ったヨキム、コゼバの人々、ヨアシおよびサラフである。その記録は古い。三これらの者は陶器を造る人で、ネタイムおよびゲデラに住み、王の用をするため、王とともに、そこに住んだ。

四シメオンの子らはネムエル、ヤミン、ヤリブ、ゼラ、シャウル。五シャウルの子はシャルム、その子はミブサム、その子はミシマ。六ミシマの子孫は、その子はハムエル、その子はザツクル、その子はシメイ。七シメイには男の子十六人、女の子十六人あったが、その兄弟たちには多くの子はなかった。またその氏族の者はすべてユダの子孫ほどにはふえなかった。八彼らの住んだ所はベエルシバ、モラダ、ハザル・シユアル、二九ビルハ、エゼム、トラデ、三〇ベトエル、ホルマ、チクラダ、三二ベテ・マルカボテ、ハザル・スシム、ベテ・ビリ、およびシヤライムである。これらはダビデの世に至るまで彼らの町であった。三三その村里はエタム、アイン、リンモン、トケン、アシヤンの五つの町である。三三またこれらの町々の周囲に多くの村があつて、バアルまでおよんだ。彼らのすみかは以上のとおりで、彼らはおのおの系図をもっていた。三四メシヨバブ、ヤムレク、アマジヤの子ヨシヤ、三五ヨ

エル、アシエルのひこ、セラヤの孫、ヨシビアの子エヒウ。三六エリオエナイ、ヤコバ、エシヨハヤ、アサヤ、アデエル、エシミエル、ベナヤ、三七およびシビの子ジザ。シビはアロンの子、アロンはエダヤの子、エダヤはシムリの子、シムリはシマヤの子である。三八ここに名をあげた者どもはその氏族の長であつて、それらの氏族は大いにふえ広がった。三九彼らは群れのために牧場を求めてゲドルの入口に行き、谷の東の方まで進み、四〇ついに豊かな良い牧場を見いだした。その地は広く穏やかで、安らかであつた。その地の前の住民はハムびとであつたからである。四一これらの名をしるした者どもはユダの王ヒゼキヤの世に行つて、彼らの天幕と、そこにいたメウニびとを撃ち破り、彼らをことごとく滅ぼして今日に至つてゐる。そこには、群れのための牧場があつたので、彼らはそこに住んだ。四二またシメオンびとのうちの五百人はイシの子らベラテヤ、ネアリヤ、レバヤ、ウジエルをかしらとしてセイル山に行き、四三アマレクびとで、のがれて残つていた者を撃ち滅ぼして、今日までそこに住んでゐる。

第五章 イスラエルの長子ルベンの子らは次のとおりである。——ルベンは長子であつたが父の床を汚したので、長子の権はイスラエルの子ヨセフの子らに与えられた。それで長子の権による系図にしるされていない。四四またユダは兄弟たちにまさる者となり、その中



から君たる者がでたが長子の権はヨセフのものとなったのである。――三すなわちイスラエルの長子ルベンの子らはハノク、バル、ヘツロン、カルミ。四ヨエルの子らはその子シマヤ、その子はゴグ、その子はシメイ、五その子はミカ、その子はレアヤ、その子はバアル、六その子はベエラである。このベエラはアッスリヤの王テルガテ・ビルネセルが捕え移した者である。彼はルベンびとのつかさであつた。七彼の兄弟たちは、その氏族により、その歴代の系図によれば、かしらエイエルおよびゼカリヤ、ハベラなどである。ベラはアザズの子、シマの孫、ヨエルのひこである。彼はアロエルに住み、ネボおよびバアル・メオンまで及んでいたが、九ギレアデの地で彼の家畜がふえ増したので、彼は東の方ユフラテ川のこのたの荒野の入口にまで住んだ。一〇またサウルの時、彼らはハガルびとと戦つて、これを撃ち倒し、ギレアデの東の全部にわたつて彼らの天幕に住んだ。

二ガドの子孫はこれと相對してバシヤンの地に住み、サルカまで及んでいた。三そのかしらはヨエル、次はシヤバム、ヤアナイ、シヤバテで、ともにバシヤンに住んだ。四彼らの兄弟たちは、その氏族によればミカエル、メシユラム、シバ、ヨライ、ヤカン、ジア、エベルの七人である。五これらはホリの子アビハイルの子らである。ホリはヤロアの子、ヤロアはギレアデの子、ギレアデはミカエルの子、ミカエルはエシサイの子、エシサイ

はヤドの子、ヤドはブズの子である。一五アヒはアブデルの子、アブデルはグニの子、グニはその氏族の長である。二六彼らはギレアデとバシヤンとその村里とシヤロンのすべての放牧地に住んで、その四方の境にまで及んでいた。二七これらはみなユダの王ヨタムの子とイスラエルの王ヤラベアムの世に系図にのせられた。

一八ルベンびとと、ガドびとと、マナセの半部族には出て戦いうる者四万四千七百六十人あり、皆勇士で、盾とつるぎをとり、弓をひき、戦いに巧みな人々であつた。一九彼らはハガルびとおよびエトル、ネフシ、ノダブなどと戦つたが、二〇助けを得てこれを攻めたので、ハガルびとおよびこれとともにいた者は皆、彼らの手にわたされた。これは彼らが戦いにあつた神に呼ばわり、神に寄り頼んだので神はその願いを聞かれたからである。三彼らはその家畜を奪ひ取つたが、らくだ五万、羊二十五万、ろば二千あり、また人は十万人あつた。四これはその戦いが神によつたので、多くの者が殺されて倒れたからである。そして彼らは捕え移される時まで、これに代つてその所に住んだ。

五マナセの半部族の人々はこの地に住み、ふえ広がつて、ついにバシヤンからバアル・ヘルモン、セニルおよびヘルモン山にまで及んだ。六その氏族の長たちは次のとおりである。すなわち、エベル、イシ、エリエル、アズリエル、エレミヤ、ホダヤ、ヤデエル。これらは皆そ

の氏族の長で名高い大勇士であつた。二五 彼らは先祖たちの神にむかつて罪を犯し、神が、かつて彼らの前から滅ぼされた国の民の神々を慕つて、これと姦淫したので、二六 イスラエルの神は、アッスリヤの王ブルの心を奮い起し、またアッスリヤの王テルガテ・ビルネセルの心を奮い起したので、彼はついにルベンびとと、ガドびとと、マナセの半部族を捕えて行き、ハウラとハボルとハラとゴザン川のほとりに移して今日に至っている。

## 第六章 レビの子らはゲルシオン、コハテ、メ

ラリ。ニコハテの子らはアムラム、イヅハル、ヘブロン、ウジエル。三 アムラムの子らはアロン、モーセ、ミリアム。アロンの子らはナダブ、アビウ、エレアザル、イタマル。四 エレアザルはピネハスを生み、ピネハスはアビシユアを生み、五 アビシユアはブツキを生み、ブツキはウジを生み、六 ウジはゼラヒヤを生み、ゼラヒヤはメラヨテを生み、七 メラヨテはアマリヤを生み、アマリヤはアヒトブを生み、八 アヒトブはザドクを生み、ザドクはアヒマアズを生み、九 アヒマアズはアザリヤを生み、アザリヤはヨハナンを生み、一〇 ヨハナンはアザリヤを生んだ。このアザリヤはソロモンがエルサレムに建てた宮で祭司の務をした者である。二 アザリヤはアマリヤを生み、アマリヤはアヒトブを生み、三 アヒトブはザドクを生み、ザドクはシャルムを生み、四 シャルムはヒルキヤを生み、ヒルキヤはアザリヤを生み、五 アザリヤはセラヤを生み、

セラヤはヨザダクを生んだ。二五 ヨザダクは主がネブカデネザルの手によつてユダとエルサレムの人を捕え移された時に捕えられて行つた。

二六 レビの子らはゲルシオン、コハテおよびメラリ。二七 ゲルシオンの子らの名はリブニとシメイ。二八 コハテの子らはアムラム、イヅハル、ヘブロン、ウジエルである。二九 メラリの子らはマヘリとムシ。これらはレビびとのその家筋による氏族である。三〇 ゲルシオンの子はリブニ、その子はヤハテ、その子はジンマ、三 一 その子はヨア、その子はイド、その子はセラ、その子はヤテライ。三二 コハテの子はアミナダブ、その子はコラ、その子はアシル、三三 その子はエルカナ、その子はエピアサフ、その子はアシル、三四 その子はタハテ、その子はウリエル、その子はウジャ、その子はシャウル。三五 エルカナの子らはアマサイとアヒモテ、三六 その子はエルカナ、その子はゾバイ、その子はナハテ、三七 その子はエリアブ、その子はエロハム、その子はエルカナ。三八 サムエルの子らは、長子はヨエル、次はアビヤ。三九 メラリの子はマヘリ、その子はリブニ、その子はシメイ、その子はウザ、四〇 その子はシメア、その子はハギヤ、その子はアサヤである。四一 三 二 契約の箱を安置したのち、ダビデが主の宮で歌をうたう事をつかさどらせた人々は次のとおりである。三三 彼らは会見の幕屋の前で歌をもつて仕えたが、ソロモンがエルサレムに主の宮を建ててからは、一定の秩序に従つ



て務を行つた。三三その務をしたもの、およびその子らは次のとおりである。コハテびとの子らのうちヘマンは歌をうたう者、ヘマンはヨエルの子、ヨエルはサムエルの子、三四サムエルはエルカナの子、エルカナはエロハムの子、エロハムはエリエルの子、エリエルはトアの子、三五トアはヅフの子、ヅフはエルカナの子、エルカナはマハテの子、マハテはアマサイの子、三六アマサイはエルカナの子、エルカナはヨエルの子、ヨエルはアザリヤの子、アザリヤはゼバニヤの子、三七ゼバニヤはタハテの子、タハテはアシルの子、アシルはエビアサフの子、エビアサフはコラの子、三八コラはイヅハルの子、イヅハルはコハテの子、コハテはレビの子、レビはイスラエルの子である。三九ヘマンの兄弟アサフはヘマンの右に立つた。アサフはベレキヤの子、ベレキヤはシメアの子、四〇シメアはミカエルの子、ミカエルはバアセヤの子、バアセヤはマルキヤの子、四一マルキヤはエテニの子、エテニはゼラの子、ゼラはアダヤの子、四二アダヤはエタンの子、エタンはジンマの子、ジンマはシメイの子、四三シメイはヤハテの子、ヤハテはゲルシヨンの子、ゲルシヨンはレビの子である。四四また彼らの兄弟であるメラリの子らが左に立つた。そのうちのエタンはキシの子、キシはアブデの子、アブデはマルクの子、四五マルクはハシャビヤの子、ハシャビヤはアマジャの子、アマジャはヒルキヤの子、四六ヒルキヤはアムジの子、アムジはバニの子、バニはセメルの子、

四七セメルはマヘリの子、マヘリはムシの子、ムシはメラリの子、メラリはレビの子である。四八彼らの兄弟であるレビびとたちは、神の宮の幕屋のもろもろの務に任じられた。

四九アロンとその子らは燔祭の壇と香の祭壇の上にささげることを行ひ、また至聖所のすべてのわざを行ひ、かつイスラエルのためにあがなひを行ひた。すべて神のしもべモーセの命じたとおりである。五〇アロンの子孫は次のとおりである。アロンの子はエレアザル、その子はピネハス、その子はアビシユア、五一その子はブッキ、その子はウジ、その子はセラヒヤ、五二その子はメラヨテ、その子はアマリヤ、その子はアヒトブ、五三その子はザドク、その子はアヒマアズである。

五四アロンの子孫の住む所はその境のうちに宿営によつていへば次のとおりである。まずコハテびとの氏族がくじによつて得たところ、五五すなわち彼らが与えられたところは、ユダの地にあるヘブロンとその周囲の放牧地である。五六ただし、その町の田畑とその村々は、エフンネの子カレブに与えられた。五七そしてアロンの子孫に与えられたものは、のがれの町であるヘブロンおよびリブナとその放牧地、ヤツテルおよびエシテモアとその放牧地、五八ヒレンとその放牧地、デビルとその放牧地、五九アシャンとその放牧地、ベテシメシとその放牧地である。六〇またベニヤミンの部族のうちからはゲバとその放

牧地、アレメテとその放牧地、アナトテとその放牧地を  
与えられた。彼らの町は、すべてその氏族のうちに十三  
あった。

六二 またコハテの子孫の残りの者は部族の氏族のうちか  
らと、半部族すなわちマナセの半部族のうちからくじに  
よつて十の町を与えられた。六三 またゲルシヨンの子孫は  
その氏族によつてイッサカルの部族、アセルの部族、ナ  
フタリの部族、およびバシヤンのマナセの部族のうちか  
ら十三の町を与えられた。六四 メラリの子孫はその氏族に  
よつてルベンの部族、ガドの部族、およびゼブルンの部  
族のうちからくじによつて十二の町を与えられた。六五 こ  
のようにイスラエルの人々はレビびとに町々とその放牧  
地とを与えた。六六 すなわちユダの子孫の部族とシメオン  
の部族の子孫と、ベニヤミンの子孫の部族のうちからこ  
こに名をあげたこれらの町をくじによつて与えた。

六六 コハテの子孫の氏族はまたエフライムの部族のうち  
からも町々を獲てその領地とした。六七 すなわち彼らと与  
えられた、のがれの町はエフライムの山地にあるシケム  
とその放牧地、ゲゼルとその放牧地、六八 ヨクメアムとそ  
の放牧地、ベテホロンとその放牧地、六九 アヤロンとその  
放牧地、ガテリンモンとその放牧地である。七〇 またマナ  
セの半部族のうちからは、アネルとその放牧地およびビ  
レアムとその放牧地を、コハテの子孫の氏族の残りのも  
のに与えた。

七一 ゲルシヨンの子孫に与えられたものはマナセの半部  
族のうちからはバシヤンのゴランとその放牧地、アシタ  
ロテとその放牧地。七二 イッサカルの部族のうちからはケ  
デシとその放牧地、ダベラテとその放牧地、七三 ラモテと  
その放牧地、アネムとその放牧地。七四 アセルの部族のう  
ちからはマシヤルとその放牧地、アブドンとその放牧地、  
七五 ホコクとその放牧地、レホブとその放牧地。七六 ナフタ  
リの部族のうちからはガリラヤのケデシとその放牧地、  
ハンモンとその放牧地、キリアタイムとその放牧地であ  
る。七七 このほかのもの、すなわちメラリの子孫に与えら  
れたものはゼブルンの部族のうちからリンモンとその放  
牧地、タボルとその放牧地、七八 エリコに近いヨルダンの  
かなた、すなわちヨルダンの東ではルベンの部族のうち  
からは荒野のベゼルとその放牧地、ヤザとその放牧地、  
七九 ケデモテとその放牧地、メバアテとその放牧地。八〇 ガ  
ドの部族のうちからはギレアデのラモテとその放牧地、  
八一 マハナイムとその放牧地、八二 ヘシボンとその放牧地、ヤ  
ゼルとその放牧地である。

## 第七章

一 イッサカルの子らはトラ、ブワ、ヤ  
シユブ、シムロムの四人。ニトラの子らはウジ、レバヤ、  
エリエル、ヤマイ、エブサム、サムエル。これは皆トラ  
の子で、その氏族の長である。その子孫の大勇士たる者  
はダビデの世にはその数二万二千六百人であった。三ウ  
ジの子はイズラヒヤ、イズラヒヤの子らはミカエル、オ

バデヤ、ヨエル、イシアの五人で、みな長たる者であつた。<sup>四</sup>その子孫のうちに、その氏族に従えば軍勢の士卒三万六千人あつた。これは彼らが妻子を多くもつていたからである。<sup>五</sup>イツサカルの子のすべての氏族のうちの兄弟たちで系図によつて数えられた大勇士は合わせて八万七千人あつた。

<sup>六</sup>ベニヤミンの子らはベラ、ベケル、エデアエルの三人。

<sup>七</sup>ベラの子らはエツボン、ウジ、ウジェル、エレモテ、イリの五人で、皆その氏族の長である。その系図によつて数えられた大勇士は二万二千三十四人あつた。<sup>八</sup>ベケルの子らはゼミラ、ヨアシ、エリエゼル、エリオエナイ、オムリ、エレモテ、アビヤ、アナトテ、アラメテで皆ベケルの子らである。<sup>九</sup>その子孫のうち、その氏族の長として系図によつて数えられた大勇士は二万二百人あつた。<sup>一〇</sup>エデアエルの子らはビルハン。ビルハンの子らはエウシ、ベニヤミン、エホデ、ケナアナ、ゼタン、タルシシ、アヒシヤハル。<sup>二</sup>皆エデアエルの子らで氏族の長であつた。その子孫のうちには、いくさに出てよく戦う大勇士が一万七千二百人あつた。<sup>三</sup>またイルの子らはシュパムとホパム。アヘルの子はホシムである。

<sup>四</sup>ナフタリの子らはヤハジエル、グニ、エゼル、シヤルムで皆ビルハの産んだ子である。<sup>五</sup>マナセの子らはそのそばめであるスリヤの女の産んだアシリエル。彼女はまたギレアデの父マキルを産んだ。<sup>六</sup>マキルはホパムと

シュパムの妹マアカという者を妻にめとつた。<sup>二</sup>番目の子はゼロペハデという。<sup>三</sup>ゼロペハデには女の子だけがあつた。<sup>四</sup>マキルの妻マアカは男の子を産んで名をペレシと名づけた。その弟の名はシャレシ。シャレシの子らはウラムとラケムである。<sup>五</sup>ウラムの子はベダン。これらはマナセの子マキルの子であるギレアデの子らである。<sup>六</sup>その妹ハンモレケテはイシホデ、アビエゼル、マヘラを産んだ。<sup>七</sup>セミダの子らはアヒアン、シケム、ベリキ、アニアムである。

<sup>八</sup>エフライムの子はシュテラ、その子はベレデ、その子はタハテ、その子はエラダ、その子はタハテ、<sup>九</sup>その子はザバデ、その子はシュテラである。エゼルとエレアデはガテの土人らに殺された。これは彼らが下つて行つてその家畜を奪おうとしたからである。<sup>一〇</sup>父エフライムが日久しくこのために悲しんだので、その兄弟たちが来て彼を慰めた。<sup>一一</sup>そののち、エフライムは妻のところにはいった。妻ははらんで男の子を産み、その名をベリアと名づけた。その家に災があつたからである。<sup>一二</sup>エフライムの娘セラは上と下のベテホロンおよびウゼン・セラを建てた。<sup>一三</sup>ベリアの子はレバ、その子はレセフ、その子はテラ、その子はタハン、<sup>一四</sup>その子はラダン、その子はアミホデ、その子はエリシヤマ、<sup>一五</sup>その子はヌン、その子はヨシユア。<sup>一六</sup>エフライムの子孫の領地と住所はベテルとその村々、また東の方ではナアラン、西の方では



ゲゼルとその村々、またシケムとその村々、アワとその村々。二九またマナセの子孫の国境に沿って、ベテシヤンとその村々、タアナクとその村々、メギドンとその村々、ドルとその村々で、イスラエルの子ヨセフの子孫はこれらの所に住んだ。

三〇アセルの子らはイムナ、イシワ、エスイ、ベリアおよびその姉妹セラ。三一ベリアの子らはヘベルとマルキエル。マルキエルはビルザヒテの父である。三二ヘベルはヤフレテ、シヨメル、ホタムおよびその姉妹シユアを生んだ。三三ヤフレテの子らはバサク、ビムハル、アシワテ。

これらはヤフレテの子らである。三四彼の兄弟シヨメルの子らはロガ、ホバおよびアラム。三五シヨメルの兄弟ヘレムの子らはゾバ、イムナ、シレシ、アマル。三六ゾバの子らはスア、ハルネベル、シユアル、ベリ、イムラ、三七ゼル、ホド、シヤンマ、シルシャ、イテラン、ベエラ。三八エテルの子らはエフンネ、ビスバおよびアラ。三九ウラの子らはアラ、ハニエル、およびリザア。四〇これらは皆アセルの子孫であつて、その氏族の長、えりぬきの大勇士、つかさたちのかしらであつた。その系図によつて数えられた者で、いくさに出てよく戦う者の数は二万六千人であつた。

# 第八章 一ベニヤミンの生んだ者は長子はベラ、

その次はアシベル、第三はアハラ、二第四はノハ、第五はラバ。ミベラの子らはアダル、ゲラ、アビウデ、四アビシユ

ア、ナアマン、アホア、五ゲラ、シフバム、ヒラム。六エホデの子らは次のとおりである。(これらはゲバの住民の氏族の長であつて、マナハテに捕え移されたものである。)七すなわちナアマン、アヒヤ、ゲラすなわちヘグラム。ゲラはウザとアヒフデの父であつた。八シャハライムは妻ホシムとバアラを離別してのち、モアブの国で子らをもうけた。九彼が妻ホデシによつてもうけた子らはヨバブ、デビア、メシヤ、マルカム、一〇エウヅ、シャキヤ、ミルマ。これらはその子らであつて氏族の長である。二彼はまたホシムによつてアビトブとエルパアルをもうけた。三エルパアルの子らはエベル、ミシャムおよびセメド。彼はオノとロドとその村々を建てた者である。四またベリアとシマがあつた。(これらはアヤロンの住民の氏族の長であつて、ガテの住民を追い払つたものである。)五またアヒオ、シャシャク、エレモテ。六ゼバデヤ、アラデ、アデル、七ミカエル、イシバおよびヨハはベリアの子らであつた。八ゼバデヤ、メシユラム、ヘゼキ、ヘベル、九イシメライ、エズリアおよびヨバブはエルパアルの子らであつた。一〇ヤキン、ジクリ、ザベデ、一一エリエナイ、チルタイ、エリエル、一二アダヤ、ベラヤおよびシムラテはシマの子らであつた。一三イシバン、ヘベル、エリエル、一四アブドン、ジクリ、ハナン、一五ハナニヤ、エラム、アントテヤ、一六イベデヤおよびペヌエルはシャシャクの子らであつた。一七シヤムセライ、シハ

リア、アタリヤ、モヤレシヤ、エリヤおよびジクリはエロハムの子らであつた。二八これらは歴代の氏族の長であり、またかしらであつて、エルサレムに住んだ。

二九ギベオンの父エイエルはギベオンに住み、その妻の名はマアカといつた。三〇その長子はアブドンで、次はツル、キシ、バアル、ナダブ、ミゲドル、アヒオ、ザケル、三〇およびミクロテ。ミクロテはシメアを生んだ。これらもまた兄弟たちと向かいあつてエルサレムに住んだ。三二ネルはキシを生み、キシはサウルを生み、サウルはヨナタン、マルキシユア、アビナダブ、エシバアルを生んだ。三三ヨナタンの子はメリバアルで、メリバアルはミカを生んだ。三四ミカの子らはピトン、メレク、タレア、アハズである。三六アハズはエホアダを生み、エホアダはアレメテ、アズマウテ、ジムリを生み、ジムリはモザを生み、モザはビネアを生んだ。ビネアの子はラバ、ラパの子はエレアサ、エレアサの子はアゼルである。三八アゼルには六人の子があり、その名はアズリカム、ボケル、イシマエル、シャリヤ、オバデヤ、ハナンで、皆アゼルの子である。三九その兄弟エセクの子らは、長子はウラム、次はエウシ、第三はエリベレテである。四〇ウラムの子らは大勇士で、よく弓を射る者であつた。彼は多くの子と孫をもち、百五十人もあつた。これらは皆ベニヤミンの子孫である。

第九章 このようにすべてのイスラエルびと

は系図によつて数えられた。これらはイスラエルの列王紀に記されるされている。ユダはその不信のゆえにバビロンに捕囚となつた。二その領地の町々に最初に住んだものはイスラエルびと、祭司、レビびとおよび宮に仕えるしもべたちであつた。三またエルサレムにはユダの子孫、ベニヤミンの子孫およびエフライムとマナセの子孫が住んでゐた。四すなわちユダの子ベレツの子孫のうちではアミホデの子ウタイ。アミホデはオムリの子、オムリはイムリの子、イムリはバニの子である。五シロびとのうちでは長子アサヤとそのほかの子たち。六ゼラの子孫のうちではユエルとその兄弟六百九十人。七ベニヤミンの子孫のうちではハセヌアの子ホダビヤの子であるメシユラムの子サル、ハエロハムの子イブニヤ、ミクリの子であるウジの子エラおよびイブニヤの子リウエルの子であるシパテヤの子メシユラム、九ならびに彼らの兄弟たちで、その系図によれば合わせて九百五十六人。これらの人々は皆その氏族の長であつた。

一〇祭司のうちではエダヤ、ヨアリブ、ヤキン、二およびヒルキヤの子アザリヤ、ヒルキヤはメシユラムの子、メシユラムはザドクの子、ザドクはメラヨテの子、メラヨテはアヒトブの子である。アザリヤは神の宮のつかさである。三またエロハムの子アダヤ、エロハムはバシユルの子、バシユルはマルキヤの子である。またアデエルの子はマアセヤ、アデエルはヤゼラの子、ヤゼラはメ

シユラムの子、メシユラムはメシレモテの子、メシレモテはインメルの子である。三三そのほかに彼らの兄弟たちもあつた。これらはその氏族の長で、合わせて一千七百六十人、みな神の宮の務をするのに、はなはだ力のある人々であつた。

三四レビびとのうちではハシユブの子シマヤ、ハシユブはアズリカムの子、アズリカムはハシャビヤの子で、これらはメラリの子孫である。三五またバクバツカル、ヘレシ、ガラル、およびアサフの子ジクリの子であるミカの子マツタニヤ、三六ならびにエドトンの子ガラルの子であるシマヤの子オバデヤおよびエルカナの子であるアサの子ベレキヤ、エルカナはネトバびとの村里に住んだ者である。

三七門を守るものはシャルム、アックブ、タルモン、アヒマンおよびその兄弟たちで、シャルムはその長であつた。三八彼は今日まで東の方にある王の門を守っている。これらはレビの子孫で當の門を守る者である。三九コラの子エビヤサフの子であるコレの子シャルムおよびその氏族の兄弟たちなどのコラびとは幕屋のもろもろの門を守る務をつかさどつた。その先祖たちは主の営をつかさどり、その入口を守る者であつた。四〇エレアザルの子ビネハスガ、むかし彼らのつかさであつた。主は彼とともにおられた。四一メシレミヤの子ゼカリヤは会見の幕屋の門を守る者であつた。四二これらは皆選ばれて門を守る者

で、合わせて二百十二人あつた。彼らはその村々で系図によつて数えられた者で、ダビデと先見者サムエルが彼らを職に任じたのである。四三こうして彼らとその子孫は監守人として、主の家である幕屋の家の門をつかさどつた。四四門を守る者は東西南北の四方にいた。四五またその村々にいる兄弟たちは七日ごとに代り、来て彼らを助けた。四六門を守る者の長である四人のレビびとは神の家のもろもろの室と宝をつかさどつた。四七彼らは神の家を守る身であるから、そのまわりに宿つた。そして朝ごとにこれを開くことをした。

四八そのうちに務の器をつかさどる者があつた。彼らはその数を調べて携え入り、またその数を調べて携え出した。四九またそのほかの品、すべての聖なる器および麦粉、ぶどう酒、油、乳香、香料をつかさどる者があつた。五〇また祭司のともがらのうちに香料を混ぜる者があつた。五二コラびとシャルムの長子でレビびとのひとりであるマタテヤはせんべいを造る勤めをつかさどつた。五三またコハテびとの子孫であるその兄弟たちのうちに供えのパンをつかさどつて、安息日ごとにこれを整える者どもがあつた。

五三レビびとの氏族の長であるこれらの者は歌うたう者であつて、宮のもろもろの室に住み、ほかの務はしなかつた。彼らは日夜自分の務に従つたからである。五四これらはレビびとの歴代の氏族の長であつて、かしらたる



人々であつた。彼らはエルサレムに住んだ。

三五 ギベオンの父エヒエルはギベオンに住んでいた。その妻の名はマアカといつた。三六 彼の長子はアブドン、次はツル、キシ、パアル、ネル、ナダブ、三七 ゲドル、アヒオ、ゼカリヤ、ミクロテである。三八 ミクロテはシメアムを生んだ。彼らもその兄弟たちとともにエルサレムに住んで、その兄弟たちと向かいあつていた。三九 ネルはキシを生み、キシはサウルを生み、サウルはヨナタン、マルキシユア、アビナダブ、エシバアルを生んだ。四〇 ヨナタンの子はメリバアルで、メリバアルはミカを生んだ。四一 ミカの子らはピトン、メレク、タレアおよびアハズである。四二 アハズはヤラを生み、ヤラはアレメテ、アズマウテおよびジムリを生み、ジムリはモザを生み、四三 モザはピネアを生んだ。ピネアの子はレパヤ、その子はエレアサ、その子はアゼルである。四四 アゼルに六人の男の子があつた。その名はアズリカム、ボケル、イシマエル、シヤリヤ、オバデヤ、ハナン。これらはみなアゼルの子らであつた。

## 第一章

一 さてペリシテびとはイスラエルと戦つたが、イスラエルの人々がペリシテびとの前から逃げ、ギルボア山で殺されて倒れたので、二 ペリシテびとはサウルとその子たちのあとを追ひ、サウルの子ヨナタン、アビナダブおよびマルキシユアを殺した。三 戦いは激しくサウルにおし迫り、射手の者どもがついにサウル

を見つけたので、彼は射手の者どもに傷を負わされた。四 そこでサウルはその武器を執る者に言つた、「つるぎを抜き、それをもつてわたしを刺せ。さもないと、これらの割礼なき者が来て、わたしをはずかしめるであらう」。しかしその武器を執る者がいたく恐れて聞きいれなかつたので、サウルはつるぎをとつてその上に伏した。五 武器を執る者はサウルの死んだのを見て、自分もまたつるぎの上に伏して死んだ。六 こうしてサウルと三人の子らおよびその家族は皆ともに死んだ。七 谷にいたイスラエルの人々は皆彼らの逃げるのを見て、またサウルとその子らの死んだのを見て、町々をすてて逃げたので、ペリシテびとが来てそのうちに住んだ。

八 あくる日ペリシテびとは殺された者から、はぎ取るために来て、サウルとその子らのギルボア山に倒れていゝるのを見、九 サウルをはいでその首と、よろいかぶとを取り、ペリシテびとの国の四方に人をつかわして、この良き知らせをその偶像と民に告げさせた。一〇 してサウルのよろいかぶとを彼らの神の家に置き、首をダゴンの神殿にくぎづけにした。一一 しかしヤベシ・ギレアデの人は皆ペリシテびとがサウルにしたことを聞いたので、一二 勇士たちが皆立ち上がり、サウルのからだとその子らのからだをとつて、これをヤベシに持つて来て、ヤベシのかしの木の下にその骨を葬り、七日の間、断食した。一三 こうしてサウルは主にむかつて犯した罪のために死

んだ。すなわち彼は主の言葉を守らず、また口寄せに問うことをして、主<sup>二</sup>に問うことをしなかった。それで主は彼を殺し、その国を移してエッサイの子ダビデに与えられた。

第一章 「ここにイスラエルの人は皆ヘbronに在るダビデのもとに集まって来て言った、「われわれは、あなたの骨肉です。先にサウルが王であった時にも、あなたはイスラエルを率いて出入りされました。そしてあなたの神、主はあなたに『あなたはわが民イスラエルを牧する者となり、わが民イスラエルの君となるであらう』と言われました」。三このようにイスラエルの長老が皆ヘbronに在る王のもとに來たので、ダビデはヘbronで主の前に彼らと契約を結んだ。そして彼らは、サムエルによって語られた主の言葉に従ってダビデに油を注ぎ、イスラエルの王とした。

四ダビデとすべてのイスラエルはエルサレムへ行った。エルサレムはすなわちエブスであつて、そこにはその地の住民であるエブスびとがいた。五エブスの住民はダビデに言った、「あなたはここにはいつてはならない」。しかし、ダビデはシオンの要害を取った。これがすなわちダビデの町である。六この時ダビデは言った、「だれでも第一にエブスびとを撃つ者を、かしらとし、將とする」。ゼルヤの子ヨアブが第一にのぼつていったので、かしらとなった。七そしてダビデがその要害に住んだので人々

はこれをダビデの町と名づけた。八ダビデはまたその町の周囲すなわちミロから四方に石がきを築き、ヨアブは町のほかの部分<sup>九</sup>を繕つた。九こうしてダビデはますます大いなる者となった。万軍の主が彼とともにおられたからである。

二ダビデの勇士のおもなものは次のとおりである。彼らはイスラエルのすべての人とともにダビデに力をそえて国を得させ、主がイスラエルについて言われた言葉にしたがつて、彼を王とした人々である。二ダビデの勇士の数は次のとおりである。すなわち三人の長であるハクモニびとの子ヤシヨバム、彼はやりをふるつて三百人に向かい、一度にこれを殺した者である。

三彼の次はアホアびとドドの子エレザルで、三勇士のひとりである。三彼はダビデとともにパスタミムにいたが、ペリシテびとがそこに集まって来て戦つた。そこに一面に大麦のはえた地所があつた。民はペリシテびとの前から逃げた。四しかし彼は地所の中に立つてこれを防ぎ、ペリシテびとを殺した。そして主は大いなる勝利を与えて彼らを救われた。

五三十人の長たちのうちの三人は下つていつてアドラムのほらあなの岩の所に在るダビデのもとへ行つた。時にペリシテびとの軍勢はレバイムの谷に陣を取つていた。六その時ダビデは要害にあり、ペリシテびとの先陣はベツレヘムにあつたが、七ダビデはせつに望んで、「だ

れかベツレヘムの門のかたわらにある井戸の水をわたしに飲ませてくれるとよいのだが」と言つた。「ハそこでその三人はペリシテびとの陣を突き通つて、ベツレヘムの門のかたわらにある井戸の水をくみ取つて、ダビデのもとに携えて来た。しかしダビデはそれを飲むうとはせず、それを主の前に注いで、「言つた、わが神よ、わたしは断じてこれをいたしません。命をかけて行つたこの人たちの血をどうしてわたしは飲むことができましょう。彼らは命をかけてこの水をとつて来たのです」。それゆゑ、ダビデはこの水を飲むうとはしなかつた。三勇士はこのことをおこなつた。

二〇ヨアブの兄弟アビシャイは三十人の長であつた。彼はやりをふるつて三百人に立ち向かい、これを殺して三人のほかにも名を得た。三彼は三十人のうち、最も尊ばれた者で、彼らのかしらとなつた。しかし、かの三人には及ばなかつた。

三エホヤダの子ベナヤは、カブジエル出身の勇士であつて、多くのてがらを立てた。彼はモアブのアリエルのふたりの子を撃ち殺した。彼はまた雪の日に下つていつて、穴の中でししを撃ち殺した。三彼はまた身のたけ五キュビトばかりのエジプトびとを撃ち殺した。そのエジプトびとは手に機の巻棒ほどのやりを持っていたが、ベナヤはつえをとつて彼の所へ下つて行き、エジプトびとの手から、やりをもぎとり、そのやりをもつて彼

を殺した。二四エホヤダの子ベナヤは、これらの事を行つて三勇士のほかにも名を得た。三五彼は三十人のうちに有名であつたが、かの三人には及ばなかつた。ダビデは彼を侍衛の長とした。

二六軍団のうちの勇士はヨアブの兄弟アサヘル。ベツレヘム出身の下ドの子エルハナン。二七ハロデ出身のシャンマ。ペロンびとヘレヅ。二八テコア出身のイッケシの子イラ。アナトテ出身のアビエゼル。二九ホシヤテびとシベカイ。アホアびとイライ。三〇ネトバ出身のマハライ。ネトバ出身のバアナの子ヘレデ。三一ベニヤミンびとのギベアから出たリバイの子イタイ。ピラトンのベナヤ。三二ガアシの谷のホライ。アルバテびとアビエル。三三バハルム出身のアズマウテ。シャルボン出身のエリヤバ。三四ギゾンびとハセム。ハラルびとシャゲの子ヨナタン。三五ハラルびとサカルの子アヒアム。ウルの子エリバル。三六メケラテびとヘベル。ペロンびとアヒヤ。三七カルメル出身のヘズロ。エズバイの子ナアライ。三八ナタンの兄弟ヨエル。ハグリの子ミブハル。三九アンモンびとゼレク。ゼルヤの子ヨアブの武器を執るもの、ベエロテ出身のナハライ。四〇イテルびとイラ。イテルびとガレブ。四一ヘテびとウリヤ。アハライの子ザバデ。四二ルベンびとシザの子アデナ。彼はルベンびとの長であつて、三十人を率いた。四三またマアカの子ハナン。ミテニびとヨシヤパテ。四四アシテラテびとウジャヤ。アロエルびとホタムの子らシヤマとエイ



エル。四<sup>五</sup>デジビとシムリの子エデアエルおよびその兄弟ヨハ。四<sup>六</sup>マハブびとエリエル。エルナアムの子らエリバイおよびヨシャビヤ。モアブびとイテマ。四<sup>七</sup>エリエル、オベデおよびメゾバびとヤシエルである。

第一二章 「ダビデがキシの子サウルにしりぞけられて、なおチクラグにいた時、次の人々が彼のもとにきた。彼らはダビデを助けて戦った勇士たちのうちにある、二弓をよくする者、左右いずれの手をもつてもよく矢を射、石を投げる者で、ともにベニヤミンびとで、サウルの同族である。三そのかしらはアヒエゼル、次はヨアシで、ともにギベア出身のシマアの子たちである。またエジエルとペレテで、ともにアズマウテの子たちである。またベラカおよびアナトテ出身のエヒウ。四またギベオン出身のイシマヤ、彼は三十人のうちの勇士で、その三十人の長である。またエレミヤ、ヤハジエル、ヨハナン、ゲデラ出身のヨザバデ、五エルザイ、エリモテ、ベアリヤ、シマリヤ、ハリフびとシバテヤ、六エルカナ、イシア、アザリエル、ヨエゼル、ヤシヨベアムで、これらはコラびとである。七またゲドルのエロハムの子たちであるヨエラおよびゼバデヤである。

八ガドびとのうちから荒野の要害に来て、ダビデについた者は皆勇士で、よく戦う軍人、よく盾とやりをつかう者、その顔はししの顔のようで、その速いことは山にいるしかのようであった。九彼らのかしらはエゼル、次は

オバデヤ、第三はエリアブ、一〇第四はミシマンナ、第五はエレミヤ、二第六はアツタイ、第七はエリエル、三第八はヨハナン、第九はエルザバデ、四第十はエレミヤ、第十一はマクバナイである。一四これらはガドの子孫で軍勢の長たる者、その最も小さい者でも百人に当り、その最も大なる者は千人に当った。一五正月、ヨルダンがその全岸にあふれたとき、彼らはこれを渡って、谷々にいる者をことごとく東に西に逃げ走らせた。

一六ベニヤミンとユダの子孫のうちの人々が要害に来て、ダビデについた。一七ダビデは出て彼らを迎えて言った、「あなたがたが好意をもつて、わたしを助けるために来たのならば、わたしの心もあなたがたと、ひとつになりましょう。しかし、わたしの手になんの悪事もないのであるならば、われわれの先祖の神がどうぞみそなわして、あなたがたを責められますように」。一八時に霊が三十人の長アマサイに臨み、アマサイは言った、

「ダビデよ、われわれはあなたのもの。」

エツサイの子よ、われわれはあなたと共にある。

平安あれ、あなたに平安あれ。

あなたがたを助ける者に平安あれ。

あなたの神があなたを助けられる。」

そこでダビデは彼らを受けいれて部隊の長とした。

一九さきにダビデがベリシテびとと共にサウルと戦おう

と攻めて来たとき、マナセびと数人がダビデについた。(ただしダビデはついにベリシテびとを助けなかった。それはベリシテびとの君たちが相はかつて、「彼はわれわれの首をとって、その主君サウルのもとに帰るであろう」と言つて、彼を去らせたからである。)二〇ダビデがチクラグへ行つたとき、マナセびとアデナ、ヨザバデ、エデアエル、ミカエル、ヨザバデ、エリウ、デルタイが彼についた。皆マナセびとの千人の長であつた。三彼らはダビデを助けて敵軍に當つた。彼らは皆大勇士で軍勢の長であつた。三ダビデを助ける者が日に日に加わつて、ついに大軍となり、神の軍勢のようになった。

三三主の言葉に従ひ、サウルの国をダビデに与えようとして、ヘブロンにいるダビデのもとに来た武装した軍隊の数は、次のとおりである。三四エダの子孫で盾とやりをとり、武装した者六千八百人、三五シメオンの子孫で、よく戦う勇士七千百人、三六レビの子孫からは四千六百人。三七エホヤダはアロンの家のつかさで、彼に属する者は三千七百人。三八ザドクは年若い勇士で、彼の氏族から出た將軍は二十二人。三九サウルの同族、ベニヤミンの子孫からは三千人、ベニヤミンの多くはなおサウルの家に忠義をつくしていた。四〇エフライムの子孫からは二万八百人、皆勇士で、その氏族の名ある人々であつた。四一マナセの半部族からは一万八千人、皆ダビデを王に立てようとして上つて来て、名をつらねた者である。四二イツサ

カルの子孫からはよく時勢に通じ、イスラエルのなすべきことをわきまえた人々が来た。その長たる者が二百人あつて、その兄弟たちは皆その指揮に従つた。四三ゼブルンからは五万人、皆訓練を経た軍隊で、もろもろの武器で身をよるい、一心にダビデを助けた者である。四四ナフタリからは将たる者一千人および盾とやりをとつてこれに従う者三万七千人。四五ダンびとからは武装した者二万八千六百人。四六アセルからは戦いの備えをした熟練の者四万人。四七またヨルダンのかなたルベンびと、ガドびと、マナセの半部族からはもろもろの武器で身をよるつた者十二万人であつた。

三八すべてこれらの戦いの備えをしたいくさびとらは真心をもつてヘブロンに来て、ダビデを全イスラエルの王にしようとした。このほかのイスラエルびともまた、心をひとつにしてダビデを王にしようとした。三九彼らはヘブロンにダビデとともに三日いて、食ひ飲みした。その兄弟たちは彼らのために備えをしたからである。四〇また彼らに近い人々はイツサカル、ゼブルン、ナフタリなどの遠い所の者まで、ろば、らくだ、驢馬、牛などに食物を負わせて来た。すなわち麦粉の食物、干いちじく、干ぶどう、ぶどう酒、油、牛、羊などを多く携えて来た。これはイスラエルに喜びがあつたからである。

第一章 ここにダビデは千人の長、百人の長などの諸將と相はかり、三そしてダビデはイスラエルの

全会衆に言った、「もし、このことをあなたがたがよしとし、われわれの神、主がこれを許されるならば、われわれは、イスラエルの各地に残っているわれわれの兄弟ならびに、放牧地の付いている町々にいる祭司とレビびとに、使をつかわし、われわれの所に呼び集めましょう。三また神の箱をわれわれの所に移しましょう。われわれはサウルの世にはこれをおろそかにしたからです」。全会衆は一同「そうしましょう」と言った。このことがすべての民の目に正しかったからである。

五そこでダビデはキリアテ・ヤリムから神の箱を運んでくるため、エジプトのシホルからハマテの入口までのイスラエルをことごとく呼び集めた。六そしてダビデとすべてのイスラエルはバアラすなわちユダのキリアテ・ヤリムに上り、ケルビムの上に座しておられる主の名をもつて呼ばれている神の箱をそこからかき上ろうと、七神の箱を新しい車にのせて、アビナダブの家からひきだし、ウザとアヒヨがその車を御した。八ダビデおよびすべてのイスラエルは歌と琴と立琴と、手鼓と、シンバルと、ラッパをもつて、力をきわめて神の前に踊った。

九彼らがキドン<sup>カドニオン</sup>の打ち場に來た時、ウザは手を伸べて箱を押えた。牛がつまずいたからである。一〇ウザが手を箱につけたことよつて、主は彼に向かつて怒りを發し、彼を撃たれたので、彼はその所で神の前に死んだ。二主がウザを撃たれたので、ダビデは怒った。その所は今日

までベレツ・ウザと呼ばれている。三その日ダビデは神を恐れて言った、「どうして神の箱を、わたしの所へかいて行けようか」。四それでダビデはその箱を自分の所ダビデの町へは移さず、これを転じてガテびとオベデ・エドムの家に運ばせた。五神の箱は三か月の間、オベデ・エドムの家に、その家族とともにとどまつた。主はオベデ・エドムの家族とそのすべての持ち物を祝福された。

第一四章 ツロの王ヒラムはダビデに使者をつかわし、彼のために家を建てさせようと香柏および石工と木工を送った。ニダビデは主が自分を堅く立ててイスラエルの王とされたことと、その民イスラエルのために彼の国を大いに興されたことを悟った。

三ダビデはエルサレムでまた妻たちをめとつた。そしてダビデにまたむすこ、娘が生れた。四彼がエルサレムで得た子たちの名は次のとおりである。すなわちシヤンマ、シヨバブ、ナタン、ソロモン、五イブハル、エリシユア、エルベレテ、六ノガ、ネベグ、ヤピア、七エリシヤマ、八ペエリアダ、九エリベレテである。一〇さてペリジテびとはダビデが油を注がれて全イスラエルの王になったことを聞いたので、ペリシテびとはみな上つてきてダビデを捜した。ダビデはこれを聞いてこれに當ろうと出ていったが、九ペリシテびとはすでに來て、レバイムの谷を侵した。一〇ダビデは神に問うて言った、「ペリシテびとに向かつて上るべきでしょうか。あな



たは彼らをわたしの手にわたされるでしようか」。主はダビデに言われた、「上りなさい。わたしは彼らをあなたの手<sup>て</sup>にわたそう」。そこで彼はバアル・ペラジムへ上つていった。その所でダビデは彼らを打ち敗り、そして言った、「神は破り出る水のように、わたしの手で敵を破られた」。それゆえ、その所の名はバアル・ペラジムと呼ばれている。三彼らが自分たちの神をそこに残して退いたので、ダビデは命じてこれを火で焼かせた。

三ベリシテびとは再び谷を侵した。四ダビデが再び神に問うたので神は言われた、「あなたは彼らを追つて上つてはならない。遠回りしてバルサムの木の前から彼らを襲いなさい。五バルサムの木の上に行進の音が聞えたならば、あなたは行つて戦いなさい。神があなたの前に出てベリシテびとの軍勢を撃たれるからです。六ダビデは神が命じられたようにして、ベリシテびとの軍勢を撃ち破り、ギベオンからゲゼルに及んだ。七そこでダビデの名はすべての国々に聞えたり、主はすべての国びとに彼を恐れさせられた。

**第一章 五章** 一ダビデはダビデの町のうちに自分のために家を建て、また神の箱のために所を備え、これのために幕屋を張った。二ダビデは言った、「神の箱をかくべき者はただレビびとのみである。主が主の箱をかかせ、また主に長く仕えさせるために彼らを選ばれたからである。三ダビデは主の箱をこれがために備えた所にかき上

るため、イスラエルをことごとくエルサレムに集めた。四ダビデはまたアロンの子孫とレビびとを集めた。五すなわち、コハテの子孫のうちからはウリエルを長としてその兄弟百二十人、六メラリの子孫のうちからはアサヤを長としてその兄弟二百二十人、七ゲルシヨムの子孫のうちからはヨエルを長としてその兄弟百三十人、八エリザパンの子孫のうちからはシマヤを長としてその兄弟二百人、九ヘブロンの子孫のうちからはエリエルを長としてその兄弟八十人、一〇ウジエルの子孫のうちからはアミナダブを長としてその兄弟百十二人である。二ダビデは祭司ザドクとアビヤタル、およびレビびとウリエル、アサヤ、ヨエル、シマヤ、エリエル、アミナダブを召し、三彼らに言った、「あなたがたはレビびとの氏族の長である。あなたがたとあなたがたの兄弟はともに身を清め、イスラエルの神、主の箱をわたしがそのために備えた所にかき上りなさい。三さきにこれをかいた者があなたがたでなかつたので、われわれの神、主はわれわれを撃たれました。これはわれわれがその定めにしたがつてそれを扱わなかつたからです。四そこで祭司たちとレビびとたちはイスラエルの神、主の箱をかき上るために身を清め、五レビびとたちはモーセが主の言葉にしたがつて命じたように、神の箱をさおもって肩になつた。

六ダビデはまたレビびとの長たちに、その兄弟たちを選んで歌うたう者となし、立琴と琴とシンバルなどの樂

器を打ちはやし、喜びの声をあげることを命じた。一七そこでレビびとはヨエルの子ヘマンと、その兄弟ベレキヤの子アサフおよびメラリの子孫である彼らの兄弟クシヤの子エタンを選んだ。一八またこれに次ぐその兄弟たちがこれと共にいた。すなわちゼカリヤ、ヤジエル、セミラモテ、エイエル、ウンニ、エリアブ、ベナヤ、マアセヤ、マッタテヤ、エリペレホ、ミクネヤおよび門を守る者オベデ・エドムとエイエル。一九歌うたう者ヘマン、アサフおよびエタンは青銅のシンバルを打ちはやす者であった。二〇ゼカリヤ、アジエル、セミラモテ、エイエル、ウンニ、エリアブ、マアセヤ、ベナヤはアラモテにしたがって立琴を奏する者であった。二一しかしマッタテヤ、エリペレホ、ミクネヤ、オベデ・エドム、エイエル、アザジャはセミニテにしたがって琴をもって指揮する者であった。二三ケナニヤはレビびとの楽長で、音楽に通じていたので、これを指揮した。二四ベレキヤとエルカナは箱のために門を守る者であった。二五祭司シパニヤ、ヨシヤパテ、ネタネル、アマサイ、ゼカリヤ、ベナヤ、エリエセルらは神の箱の前でラツパを吹き、オベデ・エドムとエヒアは箱のために門を守る者であった。

二五ダビデとイスラエルの長老たちおよび千人の長たちは行って、オベデ・エドムの家から主の契約の箱を喜び勇んでかき上った。二六神が主の契約の箱をかくレビびとを助けられたので、彼らは雄牛七頭、雄羊七頭をささげ

た。二七ダビデは亜麻布の衣服を着ていた。箱をかくすべてのレビびと、歌うたう者、音楽をつかさどるケナニヤも同様である。ダビデはまた亜麻布のエポデを着ていた。二八こうしてイスラエルは皆、声をあげ、角笛を吹きならし、ラツパと、シンバルと、立琴と琴をもって打ちはやして主の契約の箱をかき上った。

二九主の契約の箱がダビデの町にはいったとき、サウルの娘ミカルが窓からながめ、ダビデ王の舞い踊るのを見て、心のうちに彼をいやしめた。

第一六章 一人々は神の箱をかき入れて、ダビデがそのために張った幕屋のうちに置き、そして燔祭と酬恩祭を神の前にささげた。二ダビデは燔祭と酬恩祭をささげ終えたとき、主の名をもって民を祝福し、イスラエルの人々に男にも女にもおのおのパン一つ、肉一切れ、干ぶどう一かたまりを分け与えた。

四ダビデはまたレビびとのうちから主の箱の前に仕える者を立てて、イスラエルの神、主をあがめ、感謝し、ほめたたえさせた。五楽長はアサフ、その次はゼカリヤ、エイエル、セミラモテ、エヒエル、マッタテヤ、エリアブ、ベナヤ、オベデ・エドム、エイエルで、彼らは立琴と琴を弾じ、アサフはシンバルを打ち鳴らし、六祭司ベナヤとヤハジエルは神の契約の箱の前でつねにラツパを吹いた。

七その日ダビデは初めてアサフと彼の兄弟たちを立て

て、主に感謝をささげさせた。

八主に感謝し、そのみ名を呼び、

そのみわざをもらもろの民の中に知らせよ。

主にもわかつて歌え、主をほめ歌え。

そのもろもろのくすしきみわざを語れ。

一〇その聖なるみ名を誇れ。

どうか主を求める者の心が喜ぶように。

二主とそのみ力とを求めよ。

つねにそのみ顔をたずねよ。

三そのしもべアブラハムのすえよ、

その選ばれたヤコブの子らよ。

主のなされたくすしきみわざと、その奇跡と、

そのみ口のさばきを心にとめよ。

四彼はわれわれの神、主にいます。

そのさばきは全地にある。

一五主はとこしえにその契約をみこころにとめられる。

これはよろずよに命じられたみ言葉であって、

一六アブラハムと結ばれた契約、

イサクに誓われた約束である。

一七主はこれを堅く立ててヤコブのために定めとし、

イスラエルのためにとこしえの契約として、

一八言われた、「あなたにカナンの地を与えて、

あなたがたの受ける嗣業の分け前とする」と。

一九その時、彼らの数は少なくて、

数えるに足らず、かの国で旅びとなり、

二〇国から国へ行き、

この国からはかの民へ行った。

二一主は人の彼らをしえたげるのをゆるされず、

彼らのために王たちを懲らしめて、

二三言われた、「わが油そそがれた者たちに

さわってはならない。

わが預言者たちに害を加えてはならない」と。

二四全地上、主に向かつて歌え。

日ごとにその救を宣べ伝えよ。

二五もろもろの国の中にその栄光をあらわし、

もろもろの民の中にくすしきみわざをあらわせ。

主は大いなるかたにいまして、

いとほめたたうべき者、

もろもろの神にまさって、恐るべき者だからである。

二六もろもろの民のすべての神はむなし。

しかし主は天を造られた。

二七誉と威厳とはそのみ前にあり、

力と喜びとはその聖所にある。

二八もろもろの民のやからよ、主に帰せよ、

栄光と力とを主に帰せよ。

二九そのみ名にふさわしい栄光を主に帰せよ。

供え物を携えて主のみ前にきたれ。



三〇全地よ、そのみ前におののけ。

世界は堅く立って、動かされることはない。

三一天は喜び、地はたのしみ、

もろもろの国民の中に言え、「主は王であられる」と。

三二海とその中に満つるものとは鳴りどよめき、

田畑とその中のすべての物は喜び。

三三そのとき林のもろもろの木も主のみに喜び歌う。

主は地をさばくためにこられるからである。

三四主に感謝せよ、主は恵みふかく、

そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。

三五また言え、「われわれの救の神よ、われわれを救い、

もろもろの国民の中から

われわれを集めてお救いください。

そうすればあなたの聖なるみ名に感謝し、

あなたの誉を誇るでしょう。

三六イスラエルの神、主は、

とこしえからとこしえまでほむべきかな」と。

その時すべての民は「アアメン」と言って主をほめたたえた。

三七ダビデはアサフとその兄弟たちを主の契約の箱の前

にとめおいて、常に箱の前に仕え、日々のわざを行わせた。

三八オベデ・エドムとその兄弟たちは合わせて六十八

人である。またエドトンの子オベデ・エドムおよびホサ

は門守であった。三九祭司ザドクとその兄弟である祭司た

ちはギベオンにある高き所で主の幕屋の前に仕え、四〇主

がイスラエルに命じられた律法にしろされたすべてのこ

とにしたがって燔祭の壇の上に朝夕たえず燔祭を主にさ

さげた。四一また彼らとともにヘマン、エドトンおよびほ

かの選ばれて名をしるされた者どもがいて、主のいつく

しみの世々限りなきことについて主に感謝した。四二すな

わちヘマンおよびエドトンは彼らとともにいて、ラツパ、

シンバルおよびその他の聖歌のための楽器をとって音楽

を奏し、エドトンの子らは門を守った。

四三こうして民は皆おのおの家に帰り、ダビデはその家

族を祝福するために帰って行った。

第一七章「さてダビデは自分の家に住むように

なったとき、預言者ナタンに言った、「見よ、わたしは香

柏の家に住んでいるが、主の契約の箱は天幕のうちにあ

る」。ニナタンはダビデに言った、「神があなたとともにお

られるから、すべてあなたの心にあるところを行いなさ

い」。四四その夜、神の言葉がナタンに臨んで言った、四五「行っ

てわたしのしもべダビデに告げよ、『主はこう言われる、

わたしの住む家を建ててはならない。五わたしはイスラ

エルを導き上った日から今日まで、家に住まわず、天幕

から天幕に、幕屋から幕屋に移ったのである。六わたし

がすべてのイスラエルと共に歩んだすべての所で、わた

しの民を牧することを命じたイスラエルのさばきづかさ

のひとりに、ひと言でも、「どうしてあなたがたは、わたしのために香柏の家を建てないのか」と言ったことがあ  
るだろうか』と。七それゆえ今あなたは、わたしのしもべ  
ダビデにこう言いなさい、『万軍の主はこう仰せられる、  
「わたしはあなたを牧場から、羊に従っている所から  
取って、わたしの民イスラエルの君とし、八あなたがど  
こへ行くにもあなたと共におり、あなたのすべての敵を  
あなたの前から断ち去った。わたしはまた地の上の大い  
なる者の名のような名をあなたに得させよう。九そして  
わたしはわが民イスラエルのために一つの所を定めて、  
彼らを植えつけ、彼らを自分の所に住ませ、重ねて動く  
ことの無いようにしよう。一〇また前のように、すなわち  
わたしがわが民イスラエルの上にさばきづかさを立てた  
時からこのかたのように、悪い人が重ねてこれを荒すこ  
とはないであろう。わたしはまたあなたのもろもろの敵  
を征服する。かつわたしは主があなたのために家を建て  
られることを告げる。二あなたの日が満ち、あなたの先  
祖たちの所へ行かねばならぬとき、わたしはあなたの子  
すなわちあなたの子らのひとりを、あなたのあとに立て  
て、その王国を堅くする。三彼はわたしのために家を建  
てるであろう。わたしは長く彼の位を堅くする。四わた  
しは彼の父となり、彼はわたしの子となる。わたしは、  
わたしのいつくしみを、あなたのさきにあつた者から取  
り去ったように、彼からは取り去らない。一四かえって、

わたしは彼を長くわたしの家に、わたしの王国にすえお  
く。彼の位はとこしえに堅く立つであろう』。一五ナタン  
はすべてこれらの言葉のように、またすべてこの幻のよ  
うにダビデに語った。

一六そこで、ダビデ王は、はいつて主の前に座して言っ  
た、「主なる神よ、わたしがだれ、わたしの家がなんであ  
るので、あなたはこれまでわたしを導かれたのですか。  
一七神よ、これはあなたの目には小さな事です。主なる神  
よ、あなたはしもべの家に就いて、はるか後の事を語つ  
て、きたるべき代々のことを示されました。一八しもべの  
名誉については、ダビデはこの上あなたに何を申しあげ  
ることができましょう。あなたはしもべのために、またあな  
たの心にしたがって、このもろもろの大いなる事をなし、  
すべての大いなる事を知らされました。一九主よ、われわ  
れがすべて耳に聞いた所によれば、あなたのようなもの  
はなく、またあなたのほかに神はありません。二〇また地  
上のどの国民が、あなたの民イスラエルのようでありま  
しょうか。これは神が行って、自分のためにあがなって  
民とし、エジプトからあなたがあがない出されたあなた  
の民の前から国々の民を追い払い、大いなる恐るべき事  
を行って、名を得られたものではありませんか。二一あな  
たはあなたの民イスラエルを長くあなたの民とされまし  
た。主よ、あなたは彼らの神となられたのです。二二それ

ゆえ主よ、あなたがしもべと、しもべの家にについて語られた言葉を長く堅くして、あなたの言われたとおりにしてください。二四そうすればあなたの名はとこしえに堅くされ、あがめられて、『イスラエルの神、万軍の主はイスラエルの神である』と言われ、またあなたのしもべダビデの家はあなたの前に堅く立つことができるでしょう。二五わが神よ、あなたは彼のために家を建てると、しもべに示されました。それゆえ、しもべはあなたの前に祈る勇気を得ました。二六主よ、あなたは神にいまし、この良き事をしもべに約束されました。二七それゆえどうぞいま、しもべの家を祝福し、あなたの前に長く続かせてくださるように。主よ、あなたの祝福されるものは長く祝福を受けるからです」。

第一章 この後ダビデはペリシテびとを撃つてこれを征服し、ペリシテびとの手からガテとその村々を取った。

二彼はまたモアブを撃った。モアブびとはダビデのしもべとなつて、みつぎを納めた。

三ダビデはまた、ハマテのソバの王ハダデゼルがユフラテ川のほとりに、その記念碑を建てようとして行ったとき彼を撃った。四そしてダビデは彼から戦車一千、騎兵七千人、歩兵二万人を取った。ダビデは一百の戦車の馬を残して、そのほかの戦車の馬はみなその足の筋を切った。五その時ダマスコのスリヤびとがソバの王ハダ

デセルを助けるために来たので、ダビデはそのスリヤびとと二万二千人を殺した。六そしてダビデはダマスコのスリヤに守備隊を置いた。スリヤびとはみつぎを納めてダビデのしもべとなった。主はダビデにすべてその行く所で勝利を与えられた。七ダビデはハダデゼルのしもべらに持つていた金の盾を奪つて、エルサレムに持つてきた。八またハダデゼルの町テブハテとクンからダビデは非常に多くの青銅を取った。ソロモンはそれを用いて青銅の海、柱および青銅の器を造った。

九時にハマテの王トイはダビデがソバの王ハダデゼルのすべての軍勢を撃ち破つたことを聞き、一〇その子ハドラムをダビデ王につかわして、彼にあいさつさせ、かつ祝を述べさせた。ハダデゼルはかつてしばしばトイと戦いを交えたが、ダビデはハダデゼルと戦つて、これを撃ち破つたからである。ハドラムは金、銀および青銅のさまざまな器を贈つたので、二ダビデ王はこれをエドム、モアブ、アンモンの人々、ペリシテびと、アマレクなどの諸国民のうちから取つてきた金銀とともに、主にささげた。

三ゼルヤの子アビシャイは塩の谷で、エドムびと一万八千を撃ち殺した。一三ダビデはエドムに守備隊を置き、エドムびとは皆ダビデのしもべとなった。主はダビデにすべてその行く所で勝利を与えられた。

一四こうしてダビデはイスラエルの全地を治め、そのす



べての民に公道と正義を行つた。一五ゼルヤの子ヨアブは軍の長、アヒルデの子ヨシャパテは史官、二六アヒトブの子ザドクとアビヤタルの子アビメレクは祭司、シャウシヤは書記官、二七エホヤダの子ベナヤはクレテびととペレテびとの長、ダビデの子たちは王のかたわらにはべる大臣であつた。

第一九章 「この後アンモンの人々の王ナハシが死んで、その子に代つて王となつた。二そのときダビデは言つた、「わたしはナハシの子ハヌンに、彼の父がわたしに恵みを施したように、恵みを施そう」。そしてダビデは彼をその父のゆえに慰めようとして使者をつかわした。ダビデのしもべたちはハヌンを慰めるためアンモンの人々の地に来たが、三アンモンの人々のつかさたちはハヌンに言つた、「ダビデが慰める者をあなたのものとつかわしたことによって、あなたは彼があなたの父を尊ぶのだと思われませんか。彼のしもべたちが来たのは、この国をうかがい、探つて滅ぼすためではありませんか。四そこでハヌンはダビデのしもべたちを捕えて、そのひげをそり落し、その着物を中ほどから断ち切つて腰の所までにして彼らを帰してやつた。五ある人々が来て、この人たちのされたことをダビデに告げたので、彼は人をつかわして、彼らを迎えさせた。その人々が非常に恥じたからである。そこで王は言つた、「ひげがのびるまでエリコにとどまつて、その後帰りなさい」。

六アンモンの人々は自分たちがダビデに憎まれることをしたとわかつたので、ハヌンおよびアンモンの人々は銀千タラントを送つてメソポタミヤとアラム・マアカ、およびゾバから戦車と騎兵を雇い入れた。七すなわち戦車三万二千およびマアカの王とその軍隊を雇い入れたので、彼らは来てメデバの前に陣を張つた。そこでアンモンの人々は町々から寄り集まつて、戦いに行動した。八ダビデはこれを聞いてヨアブと勇士の全軍をつかわしたので、九アンモンの人々は出て来て町の入口に戦いの備えをした。また助けに來た王たちは別に野にいた。

一〇時にヨアブは戦いが前後から自分に向かつているのを見て、イスラエルのえり抜き兵士のうちから選んで、これをスリヤびとに対して備え、二そのほかの民を自分の兄弟アビシヤイの手になたして、アンモンの人々に対して備えさせ、三そして言つた、「もしスリヤびとがわたしに手ごわいときは、わたしを助けてください。もしアンモンの人々があなたに手ごわいときは、あなたを助けましょう。四勇ましくしてください。われわれの民のためと、われわれの神の町々のために、勇ましくしましょう。どうか、主が良いと思われれることをされるように」。五こうしてヨアブが自分と一緒にいる民と共にスリヤびとに向かつて戦おうとして近づいたとき、スリヤびとは彼の前から逃げた。六アンモンの人々はスリヤびとの逃げるのを見て、彼らもまたヨアブの兄弟アビシヤ

イの前から逃げて町にはいった。そこでヨアブはエルサレムに帰った。

一六しかしスリヤびとは自分たちがイスラエルの前に打ち敗られたのを見て、使者をつかわし、ハダデゼルの軍の長シヨバクの率いるユフラテ川の向こう側にいるスリヤびとを引き出した。一七この事がダビデに聞えたので、彼はイスラエルをことごとく集め、ヨルダンを渡り、彼らの所に来て、これに向かつて戦いの備えをした。ダビデがこのようにスリヤびとに対して戦いの備えをしたとき、彼らはダビデと戦った。一八しかしスリヤびとがイスラエルの前から逃げたので、ダビデはスリヤびとの戦車の兵七千、歩兵四万を殺し、また軍の長シヨバクをも殺した。一九ハダデゼルのしもべたちは味方の者がイスラエルに打ち敗られたのを見て、ダビデと和を講じ、彼に仕えた。スリヤびとは再びアンモンびとを助けることをしなかった。

第二〇章 一春になつて、王たちが戦いに出るに及んで、ヨアブは軍勢を率いてアンモンびとの地を荒し、行つてラバを包囲した。しかしダビデはエルサレムにとどまった。ヨアブはラバを撃つて、これを滅ぼした。二そしてダビデは彼らの王の冠をその頭から取りはなした。その金の重さを量ってみると一タラント、またその中に宝石があった。これをダビデの頭に置いた。ダビデはまたその町のぶんどり物を非常に多く持ち出し

た。三また彼はそのうちの民を引き出して、これをのこざりと、鉄のつるはしと、おのを使う仕事につかせた。ダビデはアンモンびとのすべての町々にこのように行った。そしてダビデと民とは皆エルサレムに帰った。

四この後ゲゼルでペリシテびとと戦いが起つた。その時ホシャびとシベカイが巨人の子孫のひとりシバイを殺した。かれらはついに征服された。五ここにまたペリシテびとと戦いがあつたが、ヤイルの子エルハナンはガテびとゴリアテの兄弟ラミを殺した。そのやりの柄は機の巻棒のようであつた。六またガテに戦いがあつたが、そこにひとりの背の高い人がいた。その手の指と足の指は六本ずつで、合わせて二十四本あつた。彼もまた巨人から生れた者であつた。七彼はイスラエルをののしつたので、ダビデの兄弟シメアの子ヨナタンがこれを殺した。八これらはガテで巨人から生れた者であつたが、ダビデの手とその家来たちの手に倒れた。

第二一章 一時にサタンが起つてイスラエルに敵し、ダビデを動かしてイスラエルを数えさせようとした。二ダビデはヨアブと軍の將校たちに言った、「あなたがたは行つて、ベエルシバからダンまでのイスラエルを数え、その数を調べてわたしに知らせなさい」。三ヨアブは言った、「それがどのくらいあつても、どうか主がその民を百倍に増されるように。しかし王が主よ、彼らは皆あなたのしもべではありませんか。どうしてわが主は

この事を求められるのですか。どうしてイスラエルに罪を得させられるのですか。四しかし王の言葉がヨアブに勝ったので、ヨアブは出て行って、イスラエルをあまねく行き巡り、エルサレムに帰って来た。五そしてヨアブは民の総数をダビデに告げた。すなわちイスラエルにはつるぎを抜く者が百十万人、ユダにはつるぎを抜く者が四十七万人あった。六しかしヨアブは王の命令を快しとしなかったで、レビとベニヤミンとはその中に数えなかった。

七この事が神の目に悪かったので、神はイスラエルを撃たれた。八そこでダビデは神に言った、「わたしはこの事を行って大いに罪を犯しました。しかし今どうか、しもべの罪を除いてください。わたしは非常に愚かなことをいたしました」。九主はダビデの先見者ガデに告げて言われた、「行ってダビデに言いなさい、『主はこう仰せられる、わたしは三つの事を示す。あなたはその一つを選びなさい。わたしはそれをあなたに行おう』と」。二ガデはダビデのもとに来て言った、「主はこう仰せられます、『あなたは選びなさい。三すなわち三年のききんか、あるいは三月の間、あなたのあだの前に敗れて、敵のつるぎに追いつかれるか、あるいは三日の間、主のつるぎすなわち疫病がこの国にあって、主の使がイスラエルの全領域にわたって滅ぼすことをするか』。いま、わたしがどういう答をわたしをつかわしたものにすべきか決

めなさい」。三ダビデはガデに言った、「わたしは非常に悩んでいるが、主のあわれみは大きいゆえ、わたしを主の手に陥らせてください。しかしわたしを人の手に陥らせないでください」。

四そこで主はイスラエルに疫病を下されたので、イスラエルびとのうち七万人が倒れた。五神はまたみ使をエルサレムにつかわして、これを滅ぼそうとされたが、み使がまさに滅ぼそうとしたとき、主は見られて、この災を悔い、その滅ぼすみ使に言われた、「もうじゅうぶんだ。今あなたの手をとどめよ」。そのとき主の使はエブスびとオルナンの打ち場のかたわらに立っていた。六ダビデが目を見て見ると、主の使が地と天の間に立って、手に抜いたつるぎをもち、エルサレムの上にさし伸べていたので、ダビデと長老たちは荒布を着て、ひれ伏した。七そしてダビデは神に言った、「民を数えよと命じたのはわたしではありませんか。罪を犯し、悪い事をしたのはわたしです。しかしこれらの羊は何をしましたか。わが神、主よ、どうぞあなたの手をわたしと、わたしの父の家にむけてください。しかし災をあなたの民に下さないでください」。八時に主の使はガデに命じ、ダビデが上って行って、エブスびとオルナンの打ち場で主のために一つの祭壇を築くように告げさせた。九そこでダビデはガデが主の名をもって告げた言葉に従って上って行った。一〇そのとき



オルナンは麦を打っていたが、ふりかえってみ使を見たので、ともにいた彼の四人の子は身をかくした。三ダビデがオルナンに近づくと、オルナンは目を上げてダビデを見、打ち場から出て来て地にひれ伏してダビデを拜した。三ダビデはオルナンに言った、「この打ち場の所をわたしに与えなさい。わたしは災が民に下るのをとどめるため、そこに主のために一つの祭壇を築きます。あなたは、そのじゅうぶんな価をとってこれをわたしに与えなさい」。三オルナンはダビデに言った、「どうぞこれをお取りなさい。そして王が主の良しと見られるところを行いなさい。わたしは牛を燔祭のために、打穀機をたきぎのために、麦を素祭のためにささげます。わたしは皆これをささげます」。二四ダビデ王はオルナンに言った、「いいえ、わたしはじゅうぶんな代価を払ってこれを買います。わたしは主のためにあなたのものを取ることをしません。また、費えなしに燔祭をささげることはいたしません」。二五それでダビデはその所のために金六百シケルをはかつて、オルナンに払った。二六こうしてダビデは主のために、その所に一つの祭壇を築き、燔祭と酬恩祭をささげて、主を呼んだ。主は燔祭の祭壇の上に天から火を下して答えられた。二七また主がみ使に命じられたので、彼はつるぎをさやにおさめた。

二八その時ダビデは主がエブスびとオルナンの打ち場で自分に答えられたのを見たので、その所で犠牲をささげ

た。二九モーセが荒野で造った主の幕屋と燔祭の祭壇とは、その時ギベオンの高き所にあつたからである。三〇しかしダビデはその前へ行つて神に求めることができなかった。彼が主の使のつるぎを恐れたからである。

第二二章 「それでダビデは言った、「主なる神の家はこれである、イスラエルのための燔祭の祭壇はこれである」と。

二ダビデは命じてイスラエルの地にいる他国人を集めさせ、また神の家を建てるのに用いる石を切るために石工を定めた。三ダビデはまた門のとびらのくぎ、およびかすがいに用いる鉄をおびただしく備えた。また青銅を量ることもできないほどおびただしく備えた。四また香柏を数えきれぬほど備えた。これはシドンびととツロの人々がおびただしく香柏をダビデの所に持つて来たからである。五ダビデは言った、「わが子ソロモンは若く、かつ経験がない。また主のために建てる家はきわめて壮大で、万国に名を得、栄えを得るものでなければならぬ。それゆえ、わたしはその準備をしておこう」と。こうしてダビデは死ぬ前に多くの物資を準備した。

六そして彼はその子ソロモンを召して、イスラエルの神、主のために家を建てることを命じた。七すなわちダビデはソロモンに言った、「わが子よ、わたしはわが神、主の名のために家を建てよう」と志していた。八ところが主の言葉がわたしに臨んで言われた、『おまえは多くの血

を流し、大いなる戦争をした。おまえはわたしの前で多くの血を地に流したから、わが名のために家を建ててはならない。九見よ、男の子がおまえに生れる。彼は平和の人である。わたしは彼に平安を与えて、周囲のもろもろの敵に煩わされないようにしよう。彼の名はソロモンと呼ばれ、彼の世にわたしはイスラエルに平安と静穏とを与える。一〇彼はわが名のために家を建ててである。彼はわが子となり、わたしは彼の父となる。わたしは彼の王位をなかくイスラエルの上に堅くするであろう。二それでわが子よ、どうか主があなたと共にいまし、あなたを榮えさせて、主があなたについて言われたように、あなたの神、主の家を建てさせてくださるように。三ただ、どうか主があなたに分別と知恵を賜い、あなたをイスラエルの上に立たせられるとき、あなたの神、主の律法を、あなたに守らせてくださるように。四あなたも、主がイスラエルについてモーセに命じられた定めとおきてとを慎んで守るならば、あなたは榮えるであろう。心を強くし、勇め。恐れてはならない、おのいてはならない。五見よ、わたしは苦難のうちにあって主の家のために金十萬タラント、銀百萬タラントを備え、また青銅と鉄を量ることもできないほどおびただしく備えた。また材木と石をも備えた。あなたはまたこれに加えなければならぬ。六あなたにはまた多数の職人、すなわち石や木を切り刻む者、工作に巧みな各種の者があ

る。一六金、銀、青銅、鉄もおびただしくある。たつて行いなさい。どうか主があなたと共におられるように」。

一七ダビデはまたイスラエルのすべてのつかさたちにその子ソロモンを助けるように命じて言った、一八あなたがたの神、主はあなたがたとともにおられるではないか。四方に泰平を賜わったではないか。主はこの地の民をわたしの手にわたされたので、この地は主の前とその民の前に服している。一九それであなたがたは心をつくし、精神をつくしてあなたがたの神、主を求めなさい。たつて主なる神の聖所を建て、主の名のために建てるその家に、主の契約の箱と神の聖なるもろもろの器を携え入れなさい」。

第二三章 一ダビデは老い、その日が満ちたので、その子ソロモンをイスラエルの王とした。

二ダビデはイスラエルのすべてのつかさおよび祭司とレビびとを集めた。三レビびとの三十歳以上のものを数え、その男の数が三万八千人あった。四ダビデは言った、「そのうち二万四千人は主の家の仕事をつかさどり、六千人はつかさびと、およびさばきびととなり、五四千人は門を守る者となり、また四千人はさんびのためにわたしの造った楽器で主をたたえよ」。六そしてダビデは彼らをレビの子らにしたがってゲルシオン、コハテ、メラリの組に分けた。

セゲルシヨンの子らはラダンとシメイ。ハラダンの子ら

は、かしらのエヒエルとゼタムとヨエルの三人。<sup>九</sup>シメイの子らはシロミテ、ハジエル、ハランの三人。これらはラダンの氏族の長であつた。<sup>一〇</sup>シメイの子らはヤハテ、ジナ、エウシ、ベリアの四人。皆シメイの子で、ニヤハテはかしら、ジザはその次、エウシとベリアは子が多くなかつたので、ともに数えられて一つの氏族となつた。

<sup>三</sup>コハテの子らはアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエルの四人。<sup>三</sup>アムラムの子らはアロンとモーセである。アロンはその子らとともに、ながくいと聖なるものを聖別するために分かれたれて、主の前に香をたき、主に仕え、常に主の名をもつて祝福することをなした。<sup>四</sup>神の人モーセの子らはレビの部族のうちに数えられた。<sup>五</sup>モーセの子らはゲルシオンとエリエゼル。<sup>六</sup>ゲルシヨンの子らは、かしらはシブエル。<sup>七</sup>エリエゼルの子らは、かしらはレハビヤ。エリエゼルにはこのほかに子がなかつた。しかしレハビヤの子らは非常に多かつた。<sup>八</sup>イツハルの子らは、かしらはシロミテ。<sup>九</sup>ヘブロンの子らは長子はエリヤ、次はアマリヤ、第三はヤハジエル、第四はエカメアム。<sup>一〇</sup>ウジエルの子らは、かしらはミカ、次はイシアである。

<sup>二</sup>メラリの子らはマヘリとムシ。マヘリの子らはエレアザルとキシ。<sup>三</sup>エレアザルは男の子がなくて死に、ただ娘たちだけであつたが、キシの子であるその身内の男たちが彼女たちをめとつた。<sup>三</sup>ムシの子らはマヘリ、エ

デル、エレモテの三人である。

<sup>二</sup>画 これらはその氏族によるレビの子孫であつて、その人数が数えられ、その名がしるされて、主の家の務をなした二十歳以上の者で、氏族の長であつた。<sup>二五</sup>ダビデは言つた、「イスラエルの神、主はその民に平安を与え、ながくエルサレムに住まわれる。<sup>二六</sup>レビびとは重ねて幕屋およびその勤めの器物をかつぐことはない。<sup>二七</sup>——ダビデの最後の言葉によつて、レビびとは二十歳以上の者が数えられた——<sup>二八</sup>彼らの務はアロンの子孫を助けて主の家の働きをし、庭とへやの仕事およびすべての聖なるものを清めること、そのほか、すべて神の家の働きをすることである。<sup>二九</sup>また供えのパン、素祭の麦粉、種入れぬ菓子、焼いた供え物、油をまぜた供え物をつかさどり、またすべて分量および大きさを量ることをつかさどり、<sup>三〇</sup>また朝ごとに立つて主に感謝し、さんびし、夕にもまたそのようにし、<sup>三一</sup>また安息日と新月と祭日に、主にもじられた数にしたがつてささげなければならぬ。<sup>三二</sup>このようにして彼らは会見の幕屋と聖所の務を守り、主の家の働きのためにその兄弟であるアロンの子らに仕えなければならぬ」。

**第二十四章** アロンの子孫の組は次のとおりである。すなわちアロンの子らはナダブ、アビウ、エレアザル、イタマル。ナダブとアビウはその父に先だつて死



に、子<sup>こ</sup>がなかつたので、エレアザルとイタマルが祭司<sup>さいし</sup>となつた。三ダビデはエレアザルの子孫<sup>しそん</sup>ザドクとイタマルの子孫<sup>しそん</sup>アヒメレクの助けによつて彼<sup>かれ</sup>らを分<sup>わ</sup>けて、それぞれ勤<sup>つと</sup>めにつけた。四エレアザルの子孫<sup>しそん</sup>のうちにはイタマルの子孫<sup>しそん</sup>のうちよりも長<sup>ちやう</sup>たる人々<sup>ひとびと</sup>が多<sup>おほ</sup>かつた。それでエレアザルの子孫<sup>しそん</sup>で氏族<sup>しぞく</sup>の長<sup>ちやう</sup>である者<sup>もの</sup>八人<sup>にん</sup>にこれを分<sup>わ</sup>けた。五このように彼<sup>かれ</sup>らは皆<sup>みな</sup>ひとしく、くじによつて分<sup>わ</sup>けられた。聖<sup>せい</sup>所のつかさ、および神<sup>かみ</sup>のつかさは、ともにエレアザルの子孫<sup>しそん</sup>とイタマルの子孫<sup>しそん</sup>から出<sup>で</sup>たからである。六レビとネタネルの子<sup>こ</sup>である書記<sup>しきき</sup>シマヤは、王<sup>おう</sup>とつかさたちと祭司<sup>さいし</sup>ザドクとアビヤタルの子<sup>こ</sup>アヒメレクと祭司<sup>さいし</sup>およびレビびとの氏族<sup>しぞく</sup>の長<sup>ちやう</sup>たちの前<sup>まえ</sup>で、これを書<sup>か</sup>きしるした。すなわちエレアザルのために氏族<sup>しぞく</sup>一つを取<sup>と</sup>れば、イタマルのために一つを取<sup>と</sup>つた。

七第一<sup>だいいち</sup>のくじはヨアリブに當<sup>あた</sup>り、第二<sup>だいに</sup>はエダヤに當<sup>あた</sup>り、第三<sup>だいに</sup>はハリムに、第四<sup>だいに</sup>はセオリムに、第五<sup>だいに</sup>はマルキヤに、第六<sup>だいに</sup>はミヤミンに、七第七<sup>だいに</sup>はハツコツに、第八<sup>だいに</sup>はアビヤに、二第九<sup>だいに</sup>はエシユアに、第十<sup>だいに</sup>はシカニヤに、三第十一<sup>だいに</sup>はエリアシブに、第十二<sup>だいに</sup>はヤキムに、三第十三<sup>だいに</sup>はホツバに、第十四<sup>だいに</sup>はエシバブに、四第十五<sup>だいに</sup>はビルガに、第十六<sup>だいに</sup>はインメルに、五第十七<sup>だいに</sup>はヘシルに、第十八<sup>だいに</sup>はハビセツに、六第十九<sup>だいに</sup>はベタヒヤに、第二十<sup>だいに</sup>はエゼキエルに、七第二十一<sup>だいに</sup>はヤキンに、第二十二<sup>だいに</sup>はガムルに、八第二

二十三<sup>だいに</sup>はデラヤに、第二十四<sup>だいに</sup>はマアジヤに當<sup>あた</sup>つた。九これは、彼<sup>かれ</sup>らの先祖<sup>せんぞ</sup>アロンによつて設<sup>ちやう</sup>けられた定めにしたがい、主<sup>しゅ</sup>の家<sup>いえ</sup>にはいつて務<sup>つとめ</sup>をなす順序<sup>しゆんじよ</sup>であつて、イスラエルの神<sup>かみ</sup>、主<sup>しゅ</sup>の彼<sup>かれ</sup>に命<sup>めい</sup>じられたとおりでである。

二〇このほかのレビの子孫<sup>しそん</sup>は次のとおりである。すなわちアムラムの子<sup>こ</sup>のうちではシュバエル。シュバエルの子<sup>こ</sup>のうちではエデヤ。三レハビヤについては、レハビヤの子<sup>こ</sup>のうちでは長子<sup>ちやうし</sup>イシア。三イヅハリびとのうちではシロミテ。シロミテの子<sup>こ</sup>のうちではヤハテ。三ヘブロンの子<sup>こ</sup>らは長子<sup>ちやうし</sup>はエリヤ、次<sup>つぎ</sup>はアマリヤ、第三<sup>だいに</sup>はヤハジエル、第四<sup>だいに</sup>はエカメアム。二四ウジエルの子<sup>こ</sup>のうちではミカ。ミカの子<sup>こ</sup>のうちではシャミル。二五ミカの子<sup>こ</sup>はイシア。イシアの子<sup>こ</sup>のうちではゼカリヤ。二六メラリの子<sup>こ</sup>らはマヘリとムシ。ヤジアの子<sup>こ</sup>らはベノ。二七メラリの子孫<sup>しそん</sup>のヤジアから出<sup>で</sup>た者<sup>もの</sup>はベノ、シヨハム、ザツクル、イブリ。二八マヘリからエレアザルが出<sup>で</sup>た。彼<sup>かれ</sup>には子<sup>こ</sup>がなかつた。二九キシについては、キシの子<sup>こ</sup>はエラメル。三〇ムシの子<sup>こ</sup>らはマヘリ、エデル、エリモテ。これらはレビびとの子孫<sup>しそん</sup>で、その氏族<sup>しぞく</sup>によつていつた者<sup>もの</sup>である。三これらの者<sup>もの</sup>もまた氏族<sup>しぞく</sup>の兄<sup>あに</sup>もその弟<sup>おとうと</sup>も同様に、ダビデ王<sup>おう</sup>と、ザドクと、アヒメレクと、祭司<sup>さいし</sup>およびレビびとの氏族<sup>しぞく</sup>の長<sup>ちやう</sup>たちの前<sup>まえ</sup>で、アロンの子孫<sup>しそん</sup>であるその兄弟<sup>きやうだい</sup>たちのようにくじを引<sup>ひ</sup>いた。

第二十五章<sup>だいに</sup> ダビデと軍<sup>ぐん</sup>の長<sup>ちやう</sup>たちはまたアサフ、ヘ

マンおよびエドトンの子らを勤めのために分かち、琴と立琴と、シンバルをもつて預言する者にした。その勤めをなした人々の数は次のとおりである。ニアサフの子たちはザツクル、ヨセフ、ネタニヤ、アサレラであつて、アサフの指揮のもとに王の命によつて預言した者である。ミエドトンについては、エドトンの子たちはゲダリヤ、ゼリ、エサヤ、ハシャビヤ、マツタテヤの六人で、琴をもつて主に感謝し、かつほめたたえて預言したその父エドトンの指揮の下にあつた。ヘマンについては、ヘマンの子たちはブツキヤ、マツタニヤ、ウジエル、シブエル、エレモテ、ハナニヤ、ハナニ、エリアタ、ギダルト、ロサムテ・エゼル、ヨシベカシヤ、マロテ、ホテル、マハジオテである。五これらは皆、神がご自身の約束にしたがって高くされた王の先見者ヘマンの子たちであつた。神はヘマンに男の子十四人、女の子十三人を与えられた。六これらの者は皆その父の指揮の下にあつて、主の宮で歌をうたい、シンバルと立琴と琴をもつて神の宮の務をした。アサフ、エドトンおよびヘマンは王の命の下にあつた。七彼らおよび主に歌をうたうことのために訓練され、すべて熟練した兄弟たちの数は二百八十八人であつた。八彼らは小なる者も、大なる者も、教師も生徒も皆ひとしくその務のためにくじを引いた。

九第一のくじはアサフのためにヨセフに当り、第二はゲダリヤに当つた。彼とその兄弟たちおよびその子たち、

合わせて十二人。一〇第三はザツクルに当つた。その子たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。二第四はイツリに当つた。その子たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。三第五はネタニヤに当つた。その子たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。四第六はブツキヤに当つた。その子たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。五第七はアサレラに当つた。その子たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。六第八はエサヤに当つた。その子たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。七第九はマツタニヤに当つた。その子たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。八第十はシメイに当つた。その子たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。九第十一はアザリエルに当つた。その子たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。一〇第十二はハシャビヤに当つた。その子たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。一一第十三はシユバエルに当つた。その子たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。一二第十四はマツタテヤに当つた。その子たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。一三第十五はエレモテに当つた。その子たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。一四第十六はハナニヤに当つた。その子たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。一五第十七はヨシベカシヤに当つた。その子たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。一六第十八はハナニに当つた。その子たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。一七第十九は

十九はマロテに當つた。その子たちおよびその兄弟たち、  
 合わせて十二人。<sup>二七</sup>第二十はエリアタに當つた。その子  
 たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。<sup>二八</sup>第二十一  
 はホテルに當つた。その子たちおよびその兄弟たち、合  
 わせて十二人。<sup>二九</sup>第二十二はギダルテに當つた。その子  
 たちおよびその兄弟たち、合わせて十二人。<sup>三〇</sup>第二十三  
 はマハジオテに當つた。その子たちおよびその兄弟た  
 ち、合わせて十二人。<sup>三一</sup>第二十四はロママテ・エゼルに  
 當つた。その子たちおよびその兄弟たち、合わせて十二  
 人であつた。

第二十六章 門を守る者の組は次のとおりである。

すなわちコラびとのうちでは、アサフの子孫のうちのコ  
 レの子メシレミヤ。<sup>一</sup>ニメシレミヤの子たちは、長子はゼ  
 カリヤ、次はエデアエル、<sup>二</sup>第三はゼバデヤ、<sup>三</sup>第四はヤテ  
 ニエル、<sup>四</sup>第五はエラム、<sup>五</sup>第六はヨハナン、<sup>六</sup>第七はエリ  
 ヨエナイである。<sup>七</sup>オベデ・エドムの子たちは、長子は  
 シマヤ、次はヨザバデ、<sup>八</sup>第三はヨア、<sup>九</sup>第四はサカル、<sup>一〇</sup>  
 第五はネタネル、<sup>一一</sup>第六はアンミエル、<sup>一二</sup>第七はイツサカル、  
 第八はピウレタイである。<sup>一三</sup>神が彼を祝福されたからであ  
 る。<sup>一四</sup>彼の子シマヤにも数人の子が生れ、有能な人々で  
 あつたので、その父の家を治める者となつた。<sup>一五</sup>すなわ  
 ちシマヤの子たちはオテニ、レバエル、オベデ、エルザ  
 バデで、エルザバデの兄弟エリウとセマキヤは力ある人  
 人であつた。<sup>一六</sup>これらは皆オベデ・エドムの子孫である。

彼らはその子たちおよびその兄弟たちと共にその勤めに  
 適した力ある人々で、合わせて六十二人、みなオベデ・  
 エドムに属する者である。<sup>一七</sup>メシレミヤにも子たちと兄  
 弟たち合わせて十八人あつて、皆力ある人々であつた。  
<sup>一八</sup>メラリの子孫ホサにも子たちがあつた。そのかしらは  
 シムリ、これは長子ではなかったが、父はこれをかしら  
 にしたのであつた。<sup>一九</sup>次はヒルキヤ、<sup>二〇</sup>第三はテバリヤ、  
 第四はゼカリヤである。ホサの子たちと兄弟たちは合わ  
 せて十三人である。

<sup>二一</sup>これらは門を守る者の組の長たる人々であつて、そ  
 の兄弟たちと同様に務をなして、主の宮に仕えた。<sup>二二</sup>彼  
 らはそれぞれ門のために小なる者も、大なる者も等しく、  
 その氏族にしたがつてくじを引いた。<sup>二三</sup>東の門のくじは  
 シレミヤに當つた。また彼の子で思慮深い議士ゼカリヤ  
 のためにくじを引いたが、北の門のくじがこれに當つ  
 た。<sup>二四</sup>オベデ・エドムには南の門のくじ、その子たちに  
 は倉のくじ、<sup>二五</sup>シユバムとホサには西の門のくじが當つ  
 た。これは坂の大路にあるシャレケテの門のかたわらに  
 あつた。守る者と守る者とは相對してゐた。<sup>二六</sup>東の方に  
 は毎日六人、北の方には毎日四人、南の方には毎日四人、  
 倉には二人と二人、<sup>二七</sup>西の方パルバルには大路に四人、  
 パルバルに二人。<sup>二八</sup>門を守る者の組は以上のとおりで、  
 コラの子孫とメラリの子孫であつた。<sup>二九</sup>  
<sup>三〇</sup>レビびとのうちアヒヤは神の宮の倉および聖なる物



の倉をつかさどった。三、ラダンの子孫すなわちラダンから出たゲルシオンびとの子孫で、ゲルシオンびとの氏族の長はエヒエリである。

三、エヒエリ、ゼタムおよびその兄弟ヨエルの子たちは主の宮の倉をつかさどった。三、アムラムびと、イツハルびと、ヘブロンびと、ウジエルびとのうちでは次のとおりであった。二、すなわちモーセの子ゲルシヨムの子シプエルは倉のつかさであつた。二、その兄弟でエリエゼルから出た者は、その子はレハビヤ、その子はエサヤ、その子はヨラム、その子はジクリ、その子はシロミテである。二、このシロミテとその兄弟たちはすべての聖なる物の倉をつかさどった。これはダビデ王と、氏族の長と、千人の長と、百人の長と、軍の長たちのささげたものである。二、すなわち彼らが戦いで獲たぶんどり物のうちから主の宮の修繕のためにささげたものである。二、またすべて先見者サムエル、キシの子サウル、ネルの子アブネル、ゼルヤの子ヨアブなどがささげた物。すべてこれらのささげ物はシロミテとその兄弟たちが管理した。

二、イツハルびとのうちでは、ケナニヤとその子たちが、つかさおよびささげびととしてイスラエルの外事のために選ばれた。三、ヘブロンびとのうちでは、ハシャビヤおよびその兄弟など勇士千七百人があつて、ヨルダンのこなた、すなわち西の方でイスラエルの監督となり、主のすべての事を行い、王に奉仕した。三、ヘブロンびとのう

ちでは、系図と氏族によつてエリヤがヘブロンびとの長であつたが、ダビデの治世の第四十年に彼らを尋ね求め、グレアデのヤゼルで彼らのうちから大勇士を得た。三、ダビデ王は彼とその兄弟など氏族の長たち二千七百人の勇士をルベンびと、ガドびと、マナセびとの半部族の監督となし、すべて神につける事と王の事とをつかさどらせた。

第二章、イスラエルの子孫のうちで氏族の長、千人の長、百人の長、およびつかさたちは年のすべての月の間、月ごとに交替して組のすべての事をなして王に仕えたが、その数にしたがえば各組二万四千人あつた。二、まず第一の組すなわち正月の分はザブデの子ヤシヨベアムがこれを率いた。その組には二万四千人あつた。三、彼はベレツの子孫で、正月の軍団のすべての将たちのかしらであつた。四、二月の組はアホアびとドダイがこれを率いた。その組には二万四千人あつた。五、三月の第三の組は祭司エホヤダの子ベナヤが長であつて、その組には二万四千人あつた。六、このベナヤはかの三十人のうちの勇士であつて三十人を率い、その子アミザバデがその組にあつた。七、四月の第四の組はヨアブの兄弟アサヘルであつて、その子ゼバデヤがこれに次いだ。その組には二万四千人あつた。八、五月の第五の組はイスラビとシヤンモテであつて、その組には二万四千人あつた。九、六月の第六の組はテコアびとイツケシの子イラで

あつて、その組には二万四千人あつた。二七月の第七の將はエフライムの子孫であるペロンびとヘレヅであつて、その組には二万四千人あつた。二八月の第八の將はゼラびとの子孫であるホシャびとシベカイであつて、その組には二万四千人あつた。三九月の第九の將はベニヤミンの子孫であるアナトテびとアビエゼルであつて、その組には二万四千人あつた。三十月の第十の將はゼラびとの子孫であるネトバびとマハライであつて、その組には二万四千人あつた。三十一月の第十一の將はエフライムの子孫であるピラトンびとベナヤであつて、その組には二万四千人あつた。三十二月の第十二の將はオテニエルの子孫であるネトバびとヘルダイであつて、その組には二万四千人あつた。

一六なおイスラエルの部族を治める者たちは次のとおりである。ルベンびとのつかさはデクリの子エリエゼル。シメオンびとのつかさはマアカの子シパテヤ。一七レビびとのつかさはケムエルの子ハシャビヤ。アロンびとのつかさはザドク。一八ユダのつかさはダビデの兄弟のひとりエリウ。イッサカルのつかさはミカエルの子オムリ。一九ゼブルンのつかさはオバデヤの子イシマヤ。ナフタリのつかさはアズリエルの子エレモテ。二〇エフライムの子孫のつかさはアザジャの子ホセア。マナセの半部族のつかさはベダヤの子ヨエル。二一ギレアデにあるマナセの半部族のつかさはゼカリヤの子イド。ベニヤミンのつかさは

はアブネルの子ヤシエル。二二ダンのつかさはエロハムの子アザリエル。これらはイスラエルの部族のつかさたちであつた。二三しかしダビデは二十歳以下の者は数えなかつた。主がかつてイスラエルを天の星のように多くすると言われたからである。二四ゼルヤの子ヨアブは数え始めたが、これをなし終えなかつた。その数えることによつて怒りがイスラエルの上に臨んだ。またその数はダビデ王の歴代志に載せなかつた。

二五アデエルの子アズマウテは王の倉をつかさどり、ウジャの子ヨナタンは田野、町々、村々、もろもろの塔にある倉をつかさどり、二六ケルブの子エズリは地を耕す農夫をつかさどり、二七ラマテびとシメイはぶどう畑をつかさどり、シブミびとザブデはぶどう畑から取つたぶどう酒の倉をつかさどり、二八ゲデルびとバアル・ハナンは平野のオリブの木といちじく桑の木をつかさどり、ヨアシは油の倉をつかさどり、二九シャロンびとシテライはシャロンで飼う牛の群れをつかさどり、アデライの子シャパテはもろもろの谷における牛の群れをつかさどり、三〇イシマエルびとオビルはらくだをつかさどり、メロノテびとエデヤはろばをつかさどり、三一ハガルびとヤジズは羊の群れをつかさどつた。彼らは皆ダビデ王の財産のつかさであつた。

三二またダビデのおじヨナタンは議官で、知恵ある人であり、学者であつた。また彼とハクモニの子エヒエルは

王の子たちの補佐であつた。三 アヒトベルは王の議官。アルキビとホシャイは王の友であつた。四 アヒトベルに次ぐ者はベナヤの子エホヤダおよびアビヤタル。王の軍の長はヨアブであつた。

## 第二十八章 「ダビデはイスラエルのすべての長官、

すなわち部族の長、王に仕えた組の長、千人の長、百人の長、王とその子たちのすべての財産および家畜のつかさ、宦官、有力者、勇士などをことごとくエルサレムに召し集めた。二そしてダビデ王はその足で立ち上がつて言つた、「わが兄弟たち、わが民よ、わたしに聞きなさい。わたしは主の契約の箱のため、われわれの神の足台のために安住の家を建てようとの志をもち、すでにこれを建てる準備をした。三しかし神はわたしに言われた、『おまえはわが名のために家を建ててはならない。おまえは軍人であつて、多くの血を流したからである』と。四それにもかかわらず、イスラエルの神、主はわたしの父の全家のうちからわたしを選んで長くイスラエルの王とせられた。すなわちユダを選んでかしらとし、ユダの家のうちで、わたしの父の家を選び、わたしの父の子らのうちで、わたしを喜び、全イスラエルの王とせられた。五そして主はわたしに多くの子を賜わり、そのすべての子らのうちからわが子ソロモンを選び、これを主の国の位にすわらせて、イスラエルを治めさせようとせられた。六主はまたわたしに言われた、『おまえの子ソロ

モンがわが家およびわが庭を造るであらう。わたしは彼を選んでわが子となしたからである。わたしは彼の父となる。七彼がもし今日のように、わが戒めとわがおきてを固く守つて行ふならば、わたしはその国をいつまでも堅くするであらう』と。八それゆえいま、主の会衆なる全イスラエルの目の前およびわれわれの神の聞かれる所であなただがたに勧める。あなたがたはその神、主のすべての戒めを守り、これを求めなさい。そうすればあなたがたはこの良き地を所有し、これをあなたがたの後の子孫に長く嗣業として伝えることができる。

九わが子ソロモンよ、あなたの父の神を知り、全き心をもつて喜び勇んで彼に仕えなさい。主はすべての心を探り、すべての思いを悟られるからである。あなたがもし彼を求めらば会うことができる。しかしあなたがもしかれを捨てらば会うことは長くあなたが捨てられるであらう。一〇それであなたは慎みなさい。主はあなたを選んで聖所とすべき家を建てさせようとされるのだから心を強くしてこれを行いなさい。

二こうしてダビデは神殿の廊およびその家、その倉、その上の室、その内の室、贖罪所の室などの計画をその子ソロモンに授け、三またその心にあつたすべてのもの、すなわち主の宮の庭、周囲のすべての室、神の家の倉、ささげ物の倉などの計画を授け、四また祭司およびレビびとの組と、主の宮のもろもろの務の仕事と、主の



宮のもろもろの勤めの器物について授け、一四またもろもろの勤めに用いるすべての金の器を造る金の目方、およびもろもろの勤めに用いる銀の器の目方を定めた。一五すなわち金の燭台と、そのともしび皿の目方、おのの燭台と、そのともしび皿の金の目方を定め、また銀の燭台についてもおのの燭台の用法にしたがつて燭台と、そのともしび皿の銀の目方を定めた。一六また供えのパンの机については、そのおのの机のために金の目方を定め、また銀の机のためにも銀を定め、一七また肉さし、鉢、かめに用いる純金の目方を定め、金の大杯についてもおのの目方を定め、銀の大杯についてもおのの目方を定め、一八また香の祭壇のために精金の目方を定め、また翼を伸べて主の契約の箱をおおっているケルビムの金の車のひな型の金を定めた。一九ダビデはすべての工作が計画にしたがつてなされるため、これについて主の手によって書かれたものにより、これをことごとく明らかにした。

二〇ダビデはその子ソロモンに言った、「あなたは心を強くし、勇んでこれを行いなさい。恐れてはならない。おののいてはならない。主なる神、わたしの神があなたとともににおられるからである。主はあなたを離れず、あなたを捨てず、ついに主の宮の務のすべての工事をなし終えさせられるでしょう。三見よ、神の宮のすべての務のためには祭司とレビびとの組がある。またもろもろの勤

めのためにすべての仕事を喜んでする巧みな者が皆あなたと共にある。またつかさたちおよびすべての民もあなたの命じるところをことごとく行うでしょう」。

第二十九章　ダビデ王はまた全会衆に言った、「わが子ソロモンは神がただひとりを選ばれた者であるが、まだ若くて経験がなく、この事業は大きい。この宮は人のためではなく、主なる神のためだからである。二そこでわたしは力をつくして神の宮のために備えた。すなわち金の物を造るために金、銀の物のために銀、青銅の物のために青銅、鉄の物のために鉄、木の物のために木を備えた。その他縞めのう、はめ石、アンチモニイ、色のついた石、さまざまの寶石、大理石などおびたらしい。三なおわたしはわが神の宮に熱心なるがゆえに、聖なる家のために備えたすべての物に加えて、わたしの持っている金銀の財宝をわが神の宮にささげる。四すなわちオフルの金三千タラント、精銀七千タラントをそのもろもろの建物の壁をおおうためにささげる。五金は金の物のために、銀は銀の物のために、すべて工人によって造られるもののために用いる。だれかきよう、主にその身をささげる者のように喜んでささげ物をするだろうか」。

六そこで氏族の長たち、イスラエルの部族のつかさたち、千人の長、百人の長および王の工事をつかさどる者たちは喜んでささげ物をした。七こうして彼らは神の宮

の務のために金五千タラント一万ダリク、銀一万タラント、青銅一万八千タラント、鉄十萬タラントをささげた。八寶石を持つてゐる者はそれをゲルシヨンびとエヒエルの手によつて神の宮の倉に納めた。九彼らがこのように真心からみずから進んで主にささげたので、民はそのみずから進んでささげたのを喜んだ。ダビデ王もまた大いに喜んだ。

一〇そこでダビデは全会衆の前で主をほめたたえた。ダビデは言った、「われわれの先祖イスラエルの神、主よ、あなたはとこしえにほむべきかたです。二主よ、大いなることと、力と、栄光と、勝利と、威光とはあなたのものです。天にあるもの、地にあるものも皆あなたのものです。主よ、国もまたあなたのものです。あなたは万有のかしらとして、あがめられます。三富と誉とはあなたから出ます。あなたは万有をつかさどられます。あなたの手には勢いと力があります。あなたの手はすべてのものを大いならしめ、強くされます。三われわれの神よ、われわれは、いま、あなたに感謝し、あなたの光榮ある名をたたえます。

二しかしわれわれがこのように喜んでささげることができても、わたしは何者でしよう。わたしの民は何でしよう。すべての物はあなたから出ます。われわれはあなたから受けて、あなたにささげたのです。二五われわれはあなたの前ではすべての先祖たちのように、旅びとで

す、寄留者です。われわれの世にある日は影のようで、長くともまゐることはできません。二六われわれの神、主よ、あなたの聖なる名のために、あなたに家を建てようとしてわれわれが備えたこの多くの物は皆あなたの手から出たもの、また皆あなたのものです。二七わが神よ、あなたは心をためし、また正直を喜ばれることを、わたしは知っています。わたしは正しい心で、このすべての物を喜んでささげました。今わたしはまた、ここにおるあなたの民が喜んで、みずから進んであなたにささげ物をするのを見ました。二八われわれの先祖アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ、あなたの民の心にこの意志と精神とをいつまでも保たせ、その心をあなたに向けさせてください。二九またわが子ソロモンに心をつくしてあなたの命令と、あなたのあかしと、あなたのさだめとを守らせて、これをことごとく行わせ、わたしが備えをした宮を建てさせてください。

三〇そしてダビデが全会衆にむかつて、「あなたがたの神、主をほめたたえよ」と言ったので、全会衆は先祖たちの神、主をほめたたえ、伏して主を拝し、王に敬礼した。三一そしてその翌日彼らは全イスラエルのために主に犠牲をささげた。すなわち燔祭として雄牛一千、雄羊一千、小羊一千をその灌祭と共に主にささげ、おびただしい犠牲をささげた。三二そしてその日、彼らは大いなる喜びをもって主の前に食い飲みした。

## 聖代志上

彼らはさらに改めてダビデの子ソロモンを王となし、これに油を注いで主の君となし、またザドクを祭司とした。三こうしてソロモンはその父ダビデに代り、王として主の位に座した。彼は榮え、イスラエルは皆彼に従った。二四またすべてのつかさたち、勇士たち、およびダビデ王の王子たちも皆ソロモン王に忠誠を誓った。二五主は全イスラエルの目の前でソロモンを非常に大いならしめ、彼より前のイスラエルのどの王も得たことのない王威を彼に与えられた。

二六このようにエッサイの子ダビデは全イスラエルを治

めた。二七彼がイスラエルを治めた期間は四十年であつた。すなわちヘブロンで七年世を治め、エルサレムで三十三年世を治めた。二八彼は高齢に達し、年も富も誉も満ち足りて死んだ。その子ソロモンが彼に代つて王となつた。二九ダビデ王の始終の行爲は、先見者サムエルの書、預言者ナタンの書および先見者ガドの書に記される。三〇そのうちには彼のすべての政と、その力および彼とイスラエルと他のすべての国々に臨んだ事どもを記している。

この王の治る期間は四十年であつた。すなわちヘブロンで七年世を治め、エルサレムで三十三年世を治めた。彼は高齢に達し、年も富も誉も満ち足りて死んだ。その子ソロモンが彼に代つて王となつた。ダビデ王の始終の行爲は、先見者サムエルの書、預言者ナタンの書および先見者ガドの書に記される。そのうちには彼のすべての政と、その力および彼とイスラエルと他のすべての国々に臨んだ事どもを記している。